トヨタ車体
TOYOTA AUTO BODY

THANKS 70th ANNIVERSARY

CSR REPORT 2015

目　次

■会社プロフィール　2
■トップメッセージ　5
■経営理念　7
■コーポレート・ガバナンス　7

■もっといいクルマづくり　8
■お客様の声に応えて　9
■良い品質のクルマづくり　15
■人づくり、職場づくり　17

■社会貢献　26

■地球環境にやさしく　29
■製品環境　30
■生産環境　33
■環境マネジメント　35

編集方針

今年度は、会社創立 70 周年を迎える年であり、お客様への感謝と当社の歴史を踏まえ、先人や仲間への感謝を表すとともに、当社の 1 年間の企業活動を巾広く知っていただけるようにいたしました。

また、取り組みをより分かりやすくお伝えするために、本紙では活動のポイントを紹介し、更に深く知りたい方には、本文中の click マークから詳細情報を閲覧できるようにいたしました。

尚、最終頁にアンケートを掲載していますので皆様の忌憚のないご意見をお寄せいただきますようお願いいたします。

本レポートの対象範囲と期間

対象範囲	トヨタ車体と連結対象子会社
対象期間	2014 年 4 月～ 2015 年 3 月を原則としますが、進捗のあった事項は期間を超えて記載。

表紙のクルマ

アルファード
（2015 年 1 月新型発売）

ヴェルファイア
（2015 年 1 月新型発売）

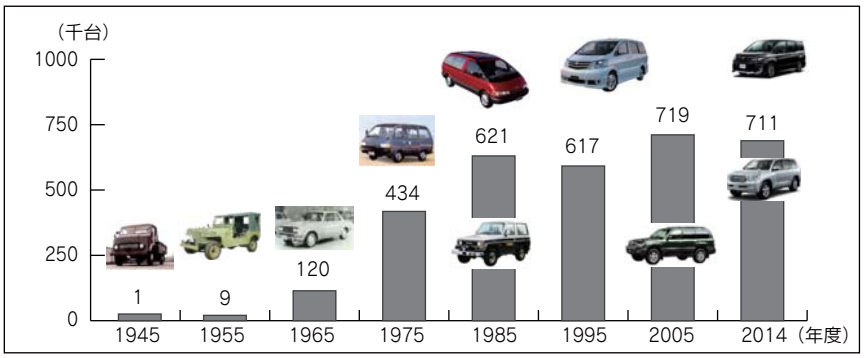
エスクァイア
スロープタイプ車いす仕様
（2014 年 10 月新型発売）

■会社プロフィール

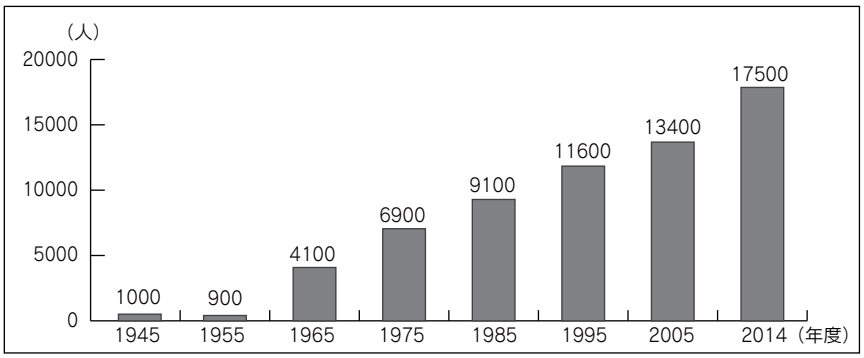
会社概要

社　　名	トヨタ車体株式会社
本社所在地	愛知県刈谷市一里山町 金山 100 番地
設　　立	1945 年 8 月 31 日
代 表 者	取締役社長　岩瀬　隆広
資 本 金	103 億 7 千 1 百万円
売 上 高	1 兆 7,147 億円 (2014 年度実績・連結)
事 業 所	本社／富士松工場、 いなべ工場、吉原工場、 刈谷工場、 寿新規開発センター

【売上台数】



【従業員数（連結）】



関連情報

- click 会社概要
- click 製品ラインナップ
- click 開発から生産までの流れ

主要製品

当該モデルの初代発売年を〔〕内に表記

ミニバン

アルファード
〔2002年〕

ヴェルファイア
〔2008年〕

エスティマ
〔1990年〕

ヴォクシー
〔2001年〕

ノア
〔2001年〕

エスクァイア
〔2014年〕

商用車・コミューター

ハイエース
〔1967年〕

コースター
〔1969年〕

SUV

ランドクルーザー
200
〔1998年〕

ランドクルーザー
70 バン
〔1984年〕

ランドクルーザー
70 ピックアップ
〔1984年〕

セダン

プリウス
〔2004年〕

福祉車両

リフトタイプ
車いす仕様車
〔1968年〕

サイドリフト
アップシート車
〔1994年〕

スロープタイプ
車いす仕様車
〔2001年〕

ウェルキャリー
（フレンドマチック
取付用専用車）
〔2009年〕

特装車

冷凍車
〔1971年〕

小型 EV

コムス
〔2000年〕

■会社プロフィール

主な事業所

生産拠点

本社・富士松工場
愛知県刈谷市一里山町金山 100 番地

＜主要製品＞
エスティマ、ヴォクシー、ノア、
エスクァイア、プリウス、
ランドクルーザー 70

いなべ工場
三重県いなべ市員弁町市之原 10 番地

＜主要製品＞
アルファード、ヴェルファイア、
ハイエース、レジアスエース

吉原工場
愛知県豊田市吉原町上藤池 25 番地

＜主要製品＞
ランドクルーザー 200
レクサス LX570（輸出専用モデル）
ランドクルーザー 70
コースター

刈谷工場
愛知県刈谷市昭和町 2 丁目 1 番地

＜主要製品＞
コムス
福祉車両「ウェルキャブ」

開発拠点

開発センター
本社・富士松工場内

生産技術センター
本社・富士松工場内

寿 新規開発センター
愛知県豊田市寿町 1 丁目 36 番地 1

国内・海外　子会社

〔〕内の数字は創立年
＜＞内は主な事業内容

国内子会社

岐阜車体工業（株）
（岐阜県各務原市）〔1940 年〕
＜自動車、同部品の製造・販売＞

（株）東海特装車
（愛知県安城市）〔1954 年〕
＜特装車の製造・販売＞

トヨタ車体精工（株）
（愛知県高浜市）〔1992 年〕
＜シート部品などの製造・販売＞

エース産業（株）
（愛知県刈谷市）〔1974 年〕
＜部品、設備機器等の製造・販売＞

東海部品工業（株）
（愛知県刈谷市）〔1999 年〕
＜プレス・板金部品の製造・販売＞

ＴＡＢＭＥＣ（株）
（愛知県刈谷市）〔1985 年〕
＜建物、付帯設備の総合メンテナンス＞

■会社プロフィール

〔〕内の数字は創立年
＜＞内は主な事業内容

国内子会社

（株）トヨタ車体研究所
（鹿児島県霧島市）　〔1990 年〕
＜自動車部品の設計・試験＞

（株）エル・エス・コーポレーション
（愛知県刈谷市）　〔2000 年〕
＜事務・福利厚生施設管理・警備保障業務代行＞

（株）イナテック
（三重県いなべ市）　〔2000 年〕
＜環境分析および計量証明＞

ライフクリエイション（株）
（愛知県豊田市）　〔1993 年〕
＜オフロード施設の運営＞

（株）ライフサポート
（愛知県安城市）　〔1999 年〕
＜介護用品販売、ホームヘルプサービス＞

（株）ジー・アイ・サービス
（岐阜県各務原市）　〔1988 年〕
＜福利厚生・工場営繕、保険他サービス＞

＊子会社の岐阜車体工業㈱の 100% 子会社

海外子会社

スギティー クリエーティブス（株）
（インドネシア）　〔1995 年〕
＜自動車、樹脂部品の製造・販売＞

春翔欣業（株）
（中華民国（台湾））　〔1997 年〕
＜プレス・板金部品、金型などの製造・販売＞

タイオートコンバージョン（株）
（タイ）　〔2004 年〕
＜特装車の製造・販売＞

トヨタオートボデートーカイ エクストゥルージョン（株）
（インドネシア）　〔2005 年〕
＜ゴム、樹脂成形部品の製造・販売＞

トヨタオートボデー マレーシア（株）
（マレーシア）　〔2005 年〕
＜プレス、板金、樹脂部品の製造・販売＞

オートパーツ マニュファクチャリング ミシシッピ（株）
（アメリカ）　〔2007 年〕
＜プレス、溶接部品、樹脂部品の製造・販売＞

トヨタオートワークス（株）
（タイ）　〔1988 年〕
＜自動車の製造・販売＞

レジンプラッティング テクノロジー（株）
（インドネシア）　〔2013 年〕
＜樹脂めっき部品、樹脂部品の製造・販売＞

じあしん ほうじつふくしきしゃぶけん 嘉興 豊実福祉汽車部件有限公司
（中国）　〔2011 年〕
＜福祉機器の販売＞

関連情報　click 国内子会社　click 海外子会社

■トップメッセージ

「もっといいクルマづくり」を通じて 豊かな社会づくりに貢献します

平素より格別のご理解とご支援を賜り、厚くお礼申しあげます。

当社はトラック専門メーカーとして 1945 年に創業し、トラックの国民車といわれた「トヨエース」、トヨタ初のグローバル車「ランドクルーザー」、国内初のワンボックス商用車「ハイエース」、ミニバンブームの火付け役となった「エスティマ」など、常に時流に先んじたクルマの開発から生産まで一貫したものづくりに取り組んでまいりました。

私たちを取り巻く環境はエネルギー・資源問題や高齢化の進展、グローバル化による価値観の多様化など、大きく変化しています。
当社はこれらの課題に真摯に向き合い「もっといいクルマづくり」を通じて、豊かな社会づくりに貢献してまいります。

取締役社長

岩瀬隆広

「もっといいクルマづくり」に向けて

(1) お客様の声に応えて

「商用車・ミニバン・SUV」の完成車両メーカーとして、お客様の期待を超えるクルマづくりを目指して、世界中での使われ方、求められる品質、お客様の要望など、マーケットインを大切にしたクルマづくりに取り組んでいます。

2015 年 1 月に発売した新型「アルファード・ヴェルファイア」は、直接ユーザーの声を聞く活動を展開し、商品化したクルマであり、まさにお客様の声が結晶した商品としてご愛顧いただいております。また、すべての人に移動の自由と喜びを提供するため、高齢の方や身体の不自由な方のための福祉車両や一人乗り電気自動車「コムス」の開発・生産に取り組んでおります。

ヴォクシー スロープ車の特徴をお客様に実車で説明（ウェルフェアー）

(2) いいクルマづくりは人づくりから

「いいクルマづくり」の基盤となるのは人であり、社員一人ひとりがクルマづくりのプロとしてグローバルに活躍できる人材育成やチームワークを醸成する活動により、いきいき職場づくりに取り組んでおります。

昨年 9 月、15 年ぶりに開催した全社運動会には 8,000 人の社員が参加しましたが、全員が力を合わせて職場の活気や一体感を醸成するイベントとして続けていきたいと思います。

8,000 人の社員が参加した全社運動会

「もっといい社会づくり」に向けて

(1) 社会貢献

社会から必要とされる企業であるためには、地域の皆さんから信頼されることが大切と考えております。

昨年５月にオープンした本社工場に隣接する「ふれ愛パーク」では、地域の小学生の皆さんに参加していただいく稲作体験や環境学習会など、コミュニケーションを深める場として活用しており、今後もふれあいの場としてまいりたいと考えています。

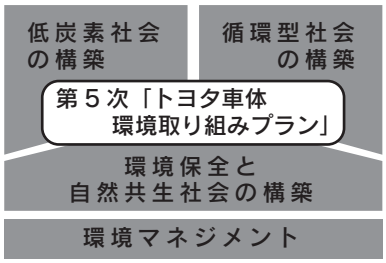
水田でできた稲わらで、しめ縄づくり

ふれ愛パークでの稲作体験

(2) 環境保全

持続可能な社会に向けて地球環境保全は重要な課題であり、当社では「トヨタ車体環境取り組みプラン」を策定し、設計から生産に至るプロセス毎に目標値を定めて取り組んでいます。

具体的には、製品開発においては燃費性能に寄与する軽量化技術の開発やリサイクル設計に取り組むとともに、工場においては最新のコージェネレーションシステムの導入など、CO_2 排出量削減などに取り組んでおります。



70 年のあゆみに感謝

当社は本年８月に創立 70 周年を迎えます。
これは当社製品をご愛顧いただいておりますお客様のおかげと深く感謝申し上げます。
また地域社会の皆様、取引先・関係各社の皆様、そして当社の歴史を築いてきた先人達に心より謝意を表します。

節目の年を迎え、トヨタ車体グループをあげて、社会の皆様からより一層必要とされる企業を目指してまいります。皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援、ご指導をお願い申しあげます。

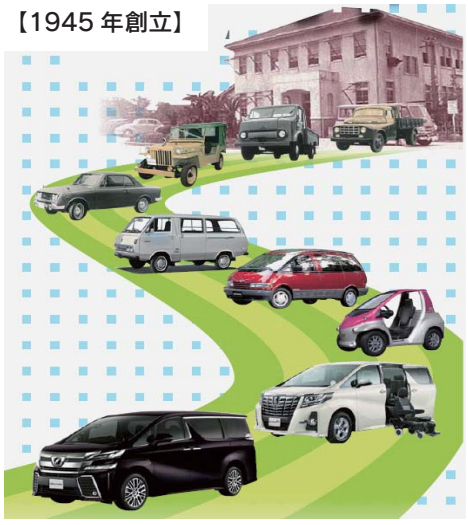
2015 年６月

＜70 年のあゆみ＞

トヨエース
（1954 年）

ハイエース
（1967 年）

【1945 年創立】



ランドクルーザー
（BJ 系）
（1953 年）

エスティマ
（1990 年）

■経営理念

当社は、豊田綱領の理念を受け継いだ社是と基本理念をもとに、持続可能な社会の発展に貢献すべく、すべてのステークホルダーを重視した経営を行ってまいります。

豊田綱領（1935 年制定）

一、上下一致　至誠業務に服し
　産業報国の実を挙ぐべし
一、研究と創造に心を致し
　常に時流に先んずべし
一、華美を戒め　質実剛健たるべし
一、温情友愛の精神を発揮し
　家庭的美風を作興すべし
一、神仏を尊崇し　報恩感謝の
　生活を為すべし

社 是（1963 年制定）

我が社は　国際的視野にたち研究と創造とにはげみよい製品によって社会に貢献し社業のたゆみない進展をめざす

開発：つねに時流に先んじアイデアと時間を尊重する
和親：誠実と信頼により 明朗と協調とをはかる
感謝：反省を進取の糧とし勤労のよろこびに生きる

基本理念（1995年制定、2004年改定）

1.環境との調和とオープンでフェアな企業行動を基本とし、国際社会から信頼され、豊かな社会づくりに貢献する企業をめざす。

2.お客様を第一に考え、研究と創造を通して、生活空間を豊かにする「よい商品」を提供する。

3.人と組織を活性化し、創造力と活力ある企業風土をつくり、企業の繁栄と社員の幸せを追求する。

4.取引先との相互信頼と開かれた取引関係を基本に、互いに経営体質の強化に努め、長期安定的な成長と共存共栄を実現する。

click 「CSR 方針」

■コーポレート・ガバナンス

当社は、効率化をはかると同時に透明性の高い経営のしくみづくりに取り組んでいます。

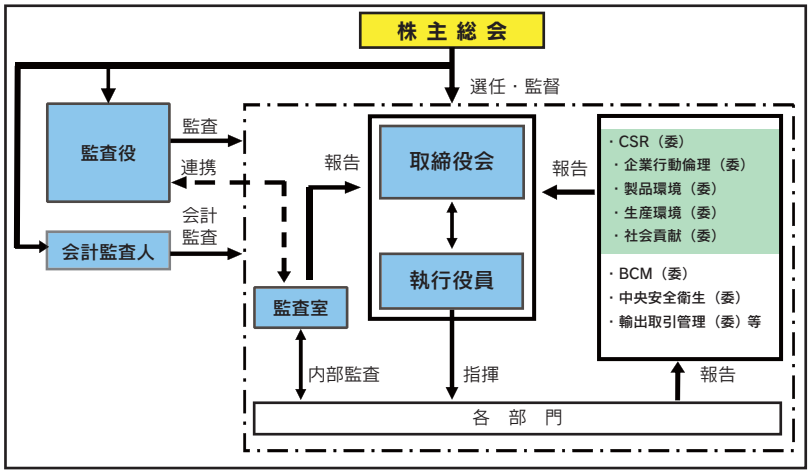
経営の意思決定と監督機能を担う取締役と業務執行を担う執行役員に区分する執行役員制度を導入し、取締役数を絞り込むことによって、事業戦略展開の迅速な意思決定およびオペレーションのスピードアップを図っております。

さらに業務執行に関しては全部門横断的な委員会等で審議する体制を構築してきました。

また、社外監査役を含む監査役の監査ならびに会計監査人による会計監査のほか、各部門から独立した監査室が、財務報告の信頼性及びコンプライアンスの領域を重点に内部監査を実施しています。

企業倫理、コンプライアンス、リスク管理、社会貢献および環境に関する活動を充実させるため、全役員および監査役で構成する「CSR 委員会」と その下部組織として 4 つの委員会を 2009 年 5 月に設置し、重要課題について審議・対応しています。

コーポレートガバナンス体系図



■もっといいクルマづくり

開発本部統括
取締役副社長　大橋　宏

「もっといいクルマづくり」を通じて、お客様に笑顔を提供します。

当社は、お客様の笑顔を思い浮かべ、感動とワクワク、どきどきするような、期待を超えた、商品の開発に取り組んでいます。
そのためには、開発技術者が国内のみならず世界各国地域に行き、自らの目と耳でお客様の声や現地での使われ方を実感し、開発へとつなげる活動を継続して、推進してまいります。

取り組みの基本的な考え方

1. お客様の声に真摯に耳を傾け、お客様目線で、期待・要望を超えた、商品を提供する。
2. デザイン、商品性、性能と、品質・安全を両立させた商品を提供する。

製品開発の位置づけ

当社は、企画、開発から生産までトータルに手がける完成車両メーカーであり、開発本部は、「もっといいクルマづくり」に一体となり取り組んでいます。

click 「開発～生産までの流れ」

	もっといいクルマづくり				
	お客様の声に応えて				安全・安心な良い品質のクルマづくり
	開発(企画、デザイン、設計)			安全	品質
	製品企画 →	デザイン →	設計 →	試験評価 →	品質保証
開発～品質保証まで	お客様の使い方・要望等調査	創造力のあるデザイン	品質の高い設計	実車を製作して、安全性能を確認（例：衝突試験）	お客様に良い品質をお届けする為の「仕事のしやすい工程づくり」（例：成形天井組付）
	市場調査等から企画を練りあげる	モデルメイキングでイメージを再現	CAEにより意匠と性能を両立させた設計	使用・環境条件を想定し、実車での性能を確認（例：雪道走行試験）	【お客様の評価】JDパワー社の米国・日本IQS（初期品質アンケート調査）にて好評価

お客様の声に応えて

お客様の期待を超えるクルマを目指して

お客様の声を大切にし、お客様の期待を超える”もっといいクルマ”を目指て商品開発に取り組んでいます。(2015 年 1 月　新型アルファード /ヴェルファイア 発表)

すべてのお客様の満足を目指して

新型アルファード /ヴェルファイアは、「子育てファミリー」を中心にドライバーだけでなく、後席に乗られるお子様や高齢者までお客様の声を聞き、期待を超える“もっといいクルマ”を目指し、開発してまいりました。

お客様からの貴重なご意見、生の声を大切にしています

お客様からいただく様々なご意見に対し、開発技術者が市場に自ら出かけ、実際の使われ方を見て、お客様から直接話を聞き、開発を推進しています。

＜お客様からのご意見＞

- 室内が広くてよい。
- 後席のシートアレンジが豊富で快適。
- スタイルがよい。
- 運転席での見晴らし、視界がよい。
- もっとよい乗心地。
- 収納スペースがもっとあるとよい。
- もっと内装に高級感があるとよい。
- 乗り降りがもっと楽になるとよい。
- 助手席がもっと広くなるとよい。

お客様から運転席の見晴らし感に関する好みと傾向を確認

お客様の期待を超えるために

いただいたご意見からお客様が“本当に求めているモノ”を追求し、アイデアに落とし込みます。お客様の声から生まれたアイデアは、室内モデルに再現し、社内のユーザーなどに協力してもらい、検証を重ねた上で商品化を進めています。

アルファード・ヴェルファイア
開発担当者の声

製品企画センター
黒柳　輝治

お客様からの貴重なご意見、市場での実際の使われ方から得られるモノは大きく、お客様目線の大切さを実感しました。

助手席ロングスライド シートの
使い勝手を検証

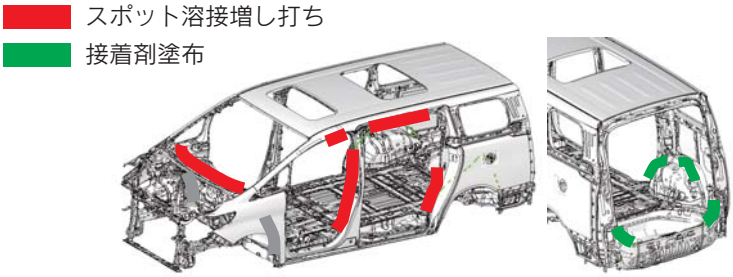
ステップ高さを下げた事による
乗り降りのし易さを検証

■もっといいクルマづくり

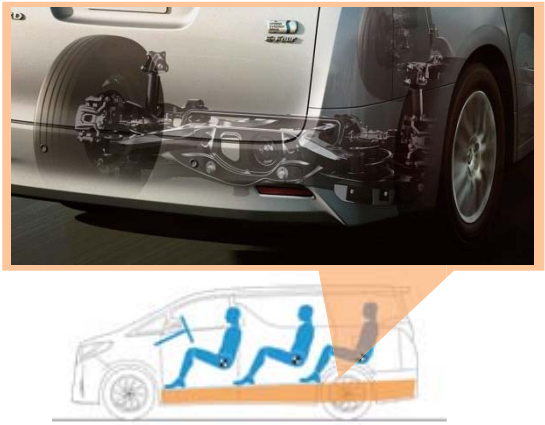
お客様の声に応えて

「ミニバンの乗心地を高級乗用車並に」の声に応えて

リアサスペンションのダブルウィッシュボーン化をトヨタ自動車と共に開発。
低床フロアやシートレイアウトとの両立を損なうことなく、実現しています。
又、スポット溶接の増し打ちや高級乗用車で採用されている構造用接着剤を採用する事でボデー剛性を高め、乗心地を向上させています。



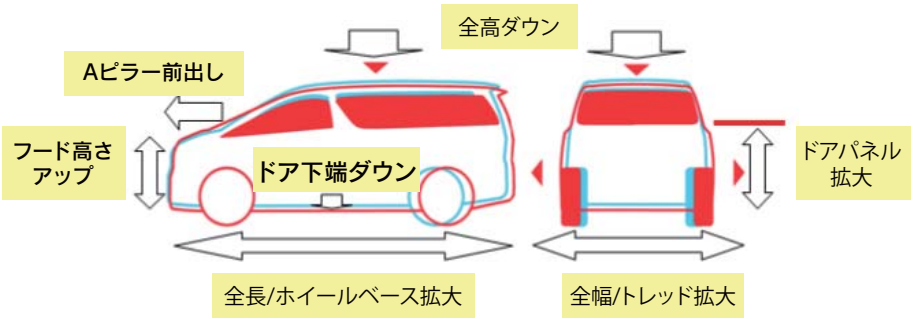
ボデー剛性アップにより乗心地を向上



新しいリアダブルウィッシュボーン式サスペンションと
低床フロア、シートレイアウトを両立

「更なるスタイルの進化に向けて」の声に応えて

旧型で好評だったデザインの更なる進化を狙い、ドッシリとした佇まい、抑揚ある面構成を実現できるパッケージングを採用。



「後席のみならず前席でも広く快適に」の声に応えて

シートレールを前から後ろまで繋ぎ、助手席の可動域を拡大。
助手席でも広く快適に使えるシートアレンジを実現。

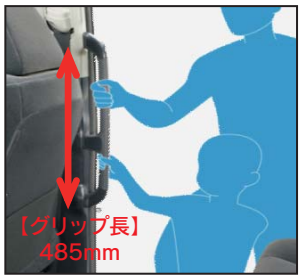
助手席スーパーロングスライド シート

アレンジ例

「乗り降りをもっと快適に」の声に応えて

快適な乗り降りができる様にステップ高を下げ、幅を拡大。
又、小さなお子様にも使い易いロングアシストグリップを採用。
更に、ドアの開口を広げる事で乗り降りも楽に行う事ができます。

ステップ高を低減、
ステップ幅拡大を実現



長いアシストグリップを実現

開口幅拡大を実現

click 「新型アルファード /ヴェルファイアの更なる魅力」

お客様の声に応えて

お客様の安全のために

事故を未然に防ぐための「予防安全技術」と、事故発生時の被害軽減のための「衝突安全技術」の両面から安全を追及することで、お客様へ安全・安心なクルマを提供し続けていきます。

事故を未然に防ぐ安全機能の強化を目指して（予防安全）

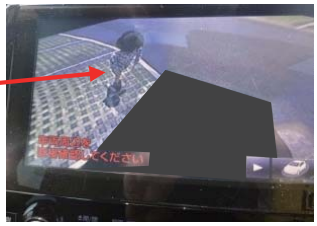
新型アルファード・ヴェルファイアにおいては、クルマを運転するときの「車両周辺の認知」や「自動ブレーキ制御」などでお客様の運転を支援し、安全確保を図っています。

駐車場など停車時、運転席から見えにくい物をモニターに表示

パノラミックビューモニターにより運転席から目視では見えにくい車両周囲の状況を確認できます。
シースルービュー機能によりボディを透かした様に表示します。

車外から見た様子

運転席からは見えない


モニターで確認

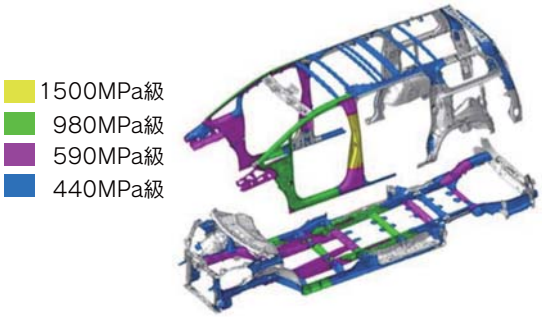
高速道路走行時、先行車に追従しスムーズに停車

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）により 0km/h から 100km/h の広い範囲で先行車との車間距離を適切に保ちながら追従走行ができます。
先行車が停止した時には適切な車間距離を保ってスムーズに停止します。

様々なシーンでの安全性向上を目指して（衝突安全）

衝突安全性と軽量化の両立

万が一の際に客室空間を確保するための高強度キャビン化と共に、高張力鋼板の採用を拡大し軽量化との両立を実現しました。
特に 980Mpa 級以上の高張力鋼板を構造部材として適切に配置しました。



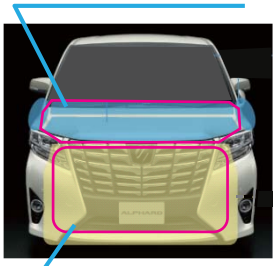
衝突安全性能評価 担当者の声

衝突安全実験室
山口　信一

軽量＆高強度のボディを完成させました。
自信を持ってお客様に“安心・安全”をお届けできます。

歩行者の傷害軽減を目指して

歩行者との衝突の際に歩行者に与える衝撃を軽減するために、ボンネット、バンパー部等に衝撃吸収構造を採用しています。



ボンネットに頭部ダミーが衝突した瞬間

ボンネット裏のスリット部が変形して衝撃を緩和

click 「安全なクルマづくりの取組みの成果」

お客様の声に応えて

お客様の使い勝手の良さを目指した商用車、ＳＵＶ の開発

世界の各国 / 各地域でクルマがどのように使用されているかを「現地現物」で観察・分析し、
お客様の嗜好や使用環境を考慮した最適な商品の開発に取り組んでいます。

世界中での使われ方から製品への反映

「こんなハイエースがあったらいいね」の声に応えて

【フロント助手席シートのスライド化】

日本のみでなく、世界で活躍しているハイエース、お客様の期待に応えるため、現地現物での調査やお客様情報の早期入手の強化など、きめ細かく使われ方･要望を把握し商品開発へ反映しています。

オーストラリア調査時：「P 席足周りスペースが狭い」の声が多いのに応え、P 席 シートスライド式を実現
（2014/12 ～）

「多くのランクル 70 ファン」の声に応えて

【ランドクルザー 70　30 周年記念として、10 年ぶりに国内再導入】

世界で活躍するランドクルーザー 70、そのファンは国内にも大勢います。
その要望に応えて、1 年の期間限定で復活導入を実現しました。
（～ 2015/6 生産分まで）
世界中のユーザー要望に応えるべく、
最新法規への対応はもとより、安全性能向上を
目指した開発を推進しております。

セミロングバン

ダブルキャブピックアップ

「こんなコースターがあったらいいね」の声に応えて

【コースターリヤシートの開発】

豪州地域の現地調査からお客様の声に応えて、
ゆとりのある大型シートの開発を行いました。
引続き、お客様志向の商品開発を推進していきます。

豪州向けリヤシート
（図は２人掛け用）2015/１～

パプアニューギニア調査時：バスターミナルにて、
お客様を送迎する多数のコースター

トピックス

ダカールラリー 2015　市販車部門　優勝・準優勝（２連覇）

click「ダカールラリー HP」

**市販車部門で、
ワン・ツーフィニッシュ！**

ダカールラリーでも、ランドクルーザーの
信頼性、走破性を実証

弊社近隣地域の方々などから提供いただいた廃食油を精製した環境にやさしいバイオディーゼル燃料を 100% 使用して参戦しています。

現地調査担当者の声

製品企画センター
竹本　尚志

世界中でお客様の移動手段として使われています。
耐久性に加え、安全装備や快適性を更に充実させ、お客様の期待に応えて進化を続けています。

お客様の声に応えて

世界のお客様の多様なニーズに応えるクルマづくり

身体の不自由な方に加え、高齢者、介護者やご家族の皆さんに喜ばれる福祉車両の開発、及び多様な特装車をマーケットインしながら開発、提供に取り組んでいます。

【福祉車両】
全ての方に「移動の自由」と「喜び」を提供

お客様に喜ばれるために、介護施設や高齢者施設を訪問し、実際の使われ方を見せて頂き、ご意見を伺い、製品開発へつなげるよう取り組んでいます。

また、より多くの方に知っていただくため、国内外での普及活動を積極的に行っています。

click「福祉商品ラインナップ」

中国向け営業担当者の声

特装・福祉センター　奥家　裕嗣

中国の老齢人口は 2020 年には約 5 億人を超えるといわれています。
当社はトヨタ自動車と連携し福祉車両の普及活動を展開しており、「移動の自由」をコンセプトに、中国福祉に貢献できる取り組みを推進していきます。

click「中国（TAMI）の活動」

＜介護施設や高齢者施設で使われ方を調査＞

介護者や施設の方が補助

高齢者と介護者が一緒に乗る

＜国内外での普及活動＞

福祉商品について特徴を実車でお客様に説明
（国内　バリアフリー展）

中国のお客様に福祉車両を紹介
（上海国際福祉機器展）

【特装車】
日々の暮らしのサポートのために

当社の子会社の東海特装車では多様なニーズに応える“働く車”を開発・製造しています。

多種ある製品の内の一つ、移動販売車は、東日本大震災で被災された方々の生活を支えています。

click「特装車商品ラインナップ」

＜東日本大震災後　仮設住宅で活躍する移動販売車＞

大船渡市の高台にある仮設住宅を訪問中

車内にもいっぱいの商品棚

豊かな暮らしのために

暮らしの中にわくわく、どきどきを感じて欲しいと考え、通勤に・遊びにと多目的に使える車を提案しています。
（東海特装車）

click「東海特装車の活動」

＜各地で実車展示・紹介＞

ノア　ときめき
（フレンドリーフェスタ）

エスクァイア　ときめき
（名古屋キャンピングカーフェア）

お客様の声に応えて

新しいクルマ社会の実現に向けて

水素社会の先駆けになるトヨタの燃料電池車基幹部品の開発・生産に取り組んでいます。
コムスを活用した低炭素社会の実現を目指し、国内や海外での実証実験が始まっています。

究極のエコカー実現に向けて

燃料電池基幹部品の開発・生産

トヨタ自動車が発売した燃料電池車「MIRAI」の燃料電池スタック基幹部品として、当社が開発した世界初となる「3D ファインメッシュ流路」が採用されました。

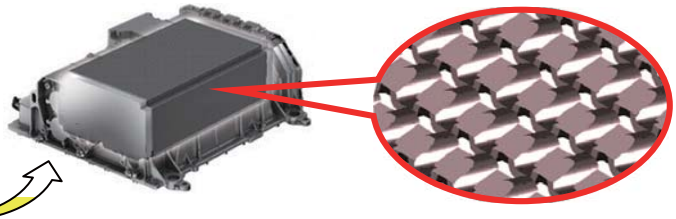
流路構造による排水性と空気の拡散性を同時に向上させ、セル面内の均一な発電を実現することにより、従来品に比べ 2.2 倍の出力密度で小型高性能化を達成しました。また、当社独自の超精密プレス加工技術を用いて開発部品の生産を行っています。

燃料電池基幹部品　開発担当者の声

新規事業開発部　吉岡　直樹

次期燃料電池車に向け今後も 3D ファインメッシュ流路の更なる発電効率、生産性の向上を図り燃料電池車の性能向上、普及拡大へ貢献していきます。

トヨタ燃料電池車「MIRAI」



燃料電池スタック　　3D ファインメッシュ流路（一部拡大）

（画像提供：トヨタ自動車株式会社）

コムスを利用した新たな社会の創出

国内実証実験

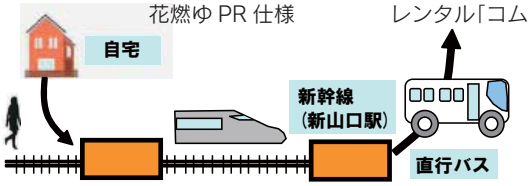
コムスは各地の低炭素社会を目指した実証実験に活用されています。

萩市では点在する観光地の移動手段としてコムスの活用の仕方を検討しています。

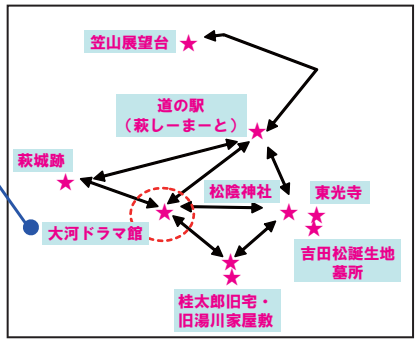
花燃ゆ大河ドラマ館

花燃ゆ PR 仕様

レンタル「コムス」



萩市に点在する史跡・名所への移動に活用



海外実証実験

フランスのグルノーブル市で、トヨタ自動車による超小型 EV を使用したカーシェアリングの実証実験「Cite' lib by Ha:mo（シテ・リブ バイ ハーモ）※が 2014 年 10 月初旬より開始され、コムス 35 台が採用されています。

※ シェアリング事業を営むシテ・リブ（Cite lib）、充電インフラを整備するフランス電力公社（EDF）、グルノーブル市、トヨタ自動車の共同プロジェクト

フランス、グルノーブル市（i-ROAD と共にコムス 35 台が実証実験中）

click「コムスのあゆみ」　click「当社 HP コムス」

click「Facebook 公式ページ」　click「YouTube COMS・Fit Your Life !!」

■もっといいクルマづくり

良い品質のクルマづくり

お客様を第一に考え、良い品質の商品をお届けします

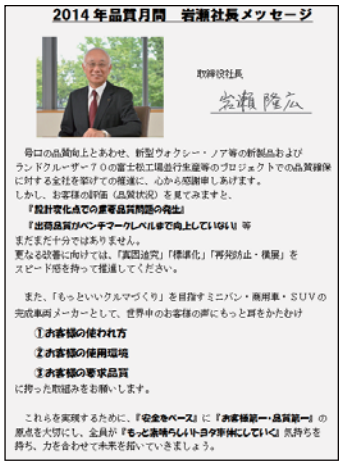
品質は開発・生産技術・生産・取引先様等の連携からつくり出されます。「お客様第一」「品質第一」を社員全員が共有・実践し、一人ひとりが常に高い改善意識を持って、取り組んでいます。
今後も各分野が連携することで、更なるお客様の安心と満足度向上を目指してまいります。

お客様第一を全社員で実践するために

全社員への「お客様第一」「品質第一」の浸透のために、階層別の品質教育とともに、品質講演会・品質事例展示会などを定期的に開催しています。

2014 年度は上記に加え、良いクルマづくりへのお客様からの感謝の声をまとめて毎月全社員に伝え、お客様第一の大切さを一人一人が認識し、日々の仕事に繋げています。

＜社長メッセージ＞


2014年品質月間　岩瀬社長メッセージ

取締役社長
岩瀬 隆広

毎日の品質向上とあわせ、新型ヴォクシー・ノア等の新製品およびランドクルーザー７０の富士松工場並行生産等のプロジェクトでの品質確保に対する全社を挙げての推進に、心から感謝申しあげます。
しかし、お客様の評価（品質状況）を見てみますと、
『設計変化点での重要品質問題の発生』
『出荷品質がベンチマークレベルまで向上していない』等
まだまだ十分ではありません。
更なる改善に向けては、『真因追究』『標準化』『再発防止・横展』をスピード感を持って推進してください。

また、「もっといいクルマづくり」を目指すミニバン・商用車・SUVの完成車両メーカーとして、世界中のお客様の声にもっと耳をかたむけ
①お客様の使われ方
②お客様の使用環境
③お客様の要求品質
に沿った取組みをお願いします。

これらを実現するために、『安全をベース』に『お客様第一・品質第一』の原点を大切にし、全員が『もっと素晴らしいトヨタ車体にしていく』気持ちを持ち、力を合わせて未来を拓いていきましょう。

＜品質事例展示会＞

真剣に事例を学ぶ参加者

お客様に良い品質をお届けするために

開発段階まで踏み込んだ「いいクルマづくり」

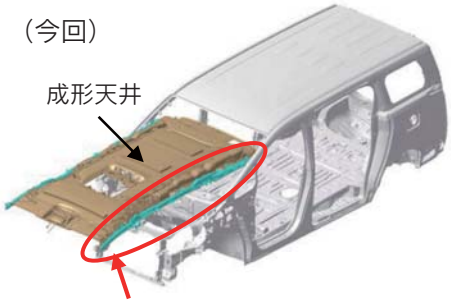
新型アルファード・ヴェルファイアにおいても、開発段階から開発・生産技術・生産・取引先様が連携して、つくりやすさにこだわった作業の追求を進めてきました。

＜お客様に良い品質をお届けする為に（新型アルファードの例）＞

（従来）

カーテンシールドエアバックを天井に上向き作業で組付け
⇒作業姿勢が悪く、組付ミスに繋がる恐れあり

（今回）



カーテンシールドエアバックを室内の**成形天井一体化**して自動で搭載

室外から組付け作業が楽にできるようになり、品質も確保

良い仕事ができるよう 仕事の手順の明確化

製造現場だけでなくスタッフ業務においても、「お客様（後工程 ）に迷惑をかけない」「自ら仕事の成果の良し悪しをその場で判断できるようにする」ことで、仕事の品質向上をはかる「自工程完結活動」を全社的に展開しています。

具体的には、それぞれの仕事を下記の観点で整備、実践し、継続して改善しています。

①まず仕事の目的・目標を明確にする
②仕事の細部手順を明確にする
③良品条件（品質ポイント）を明確にする
④実践し問題・遅れがあれば、即上司に連絡し（アンドンの紐を引く）、改善を重ねる

＜自工程完結テーマのグループ討議＞

数名のグループで仕事のやり方
改善案を討議

＜自工程完結部内発表会＞

活動事例の発表会で
良い取り組み方を 皆で共有し実践

click 「品質の取り組み具体例」：
（量産でのつくりやすいクルマづくり活動、EDER 活動、お客様の評価）

■もっといいクルマづくり

良い品質のクルマづくり

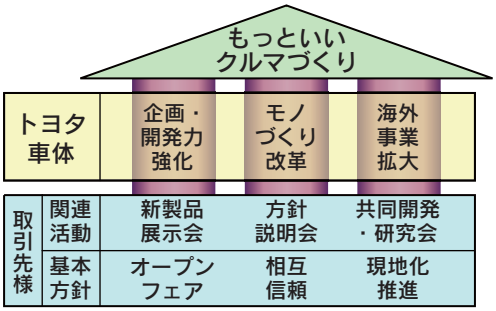
取引先様とともに「いいクルマづくり」を目指して

オープンでフェアな取引を推進し、取引先様との相互信頼にもとづく共存共栄をめざした調達活動の実践により、もっといいクルマづくりに取り組んでいます。

調達の基本的な考え方

当社との取引を希望される国内外の全ての取引先様に対して国籍・企業規模・取引実績の有無を問わず公正かつ公平な参入機会を提供しています。

そのために、当社では「調達の基本方針」を定め、調達活動をグローバルに展開し、取引先様と一緒にお客様第一を推進しています。

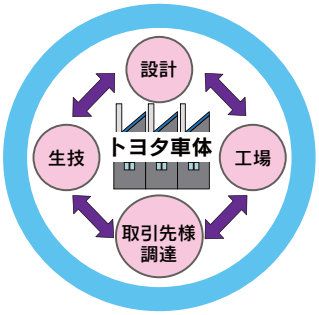


もっといいクルマづくりに向けて

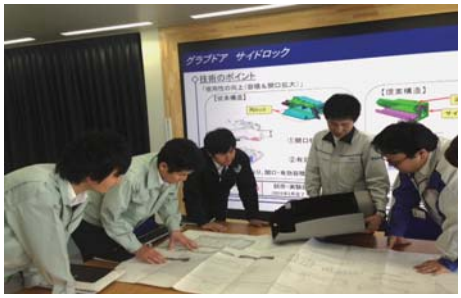
「もっといいクルマづくり」を目指して

商品開発やものづくりを全てのサプライチェーンの皆様と一体となり提案

モデルチェンジを迎える車に対し、幅広く参入機会をつくることに加え、当社のクルマづくりを知って頂くために、取引先様に部品を見ていただく部品検討会を開催し、全てのサプライチェーンの皆様と当社が一体となり、いいクルマづくりに向けて提案活動をしております。



四位一体化によるもっといいクルマづくり
（クロスファンクション開発オペレーション）



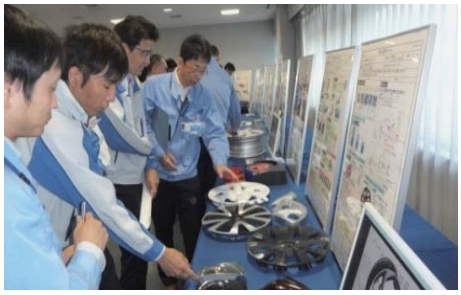
１次・２次取引先様も含めた部品検討会

取引先様との情報共有

当社の１年間の調達活動方針を 取引先様と共有するため、毎年 3 月に「調達方針説明会」を開催しております。

また、取引先様への期待を明確にするため、「仕入先 CSR ガイドライン」・「グリーン調達ガイドライン」を作成し展開しております。

click 「仕入先 CSR ガイドライン」（2013 年改訂）　click 「グリーン調達ガイドライン」



取引先様による展示会

調達活動を支える取り組みについて

取引先様も参加しての勉強会による啓蒙活動

取引先様の協力会である「車体協和会」での研究会及び展示会や災害ゼロに向け「輸送研究会」・「安全衛生連絡会」など各種活動の勉強会を通した啓蒙活動を実施しております。

取引先様へのアンケート調査による調達活動への反映

オープンでフェアな取引と相互信頼をより強化する為に当社の調達活動を約 370 社の取引先様に評価していただき、ご意見・ご要望をお聞きしながら今後の調達活動に反映しております。

「輸送研究会」による相互研鑽

■人づくり、職場づくり

コーポレート本部 統括
取締役副社長　市川　忍

「いいクルマづくり」に向けた人づくり、職場づくり

お客様に“喜び”と“満足”を感じていただける「いいクルマ」を提供するためには、社員一人ひとりの持続的な成長と、働きやすい環境、活力ある職場で、いきいきと働くことが大切であると考えます。
当社では、先人から引き継がれてきた、仕事をする上で大切にすべきことを『私たちの大切にするもの』としてまとめ、その心を理解し、実践することにより、仕事を通じた意識醸成に取り組んでいます。

職場風土、意識改革
「私たちの大切にするもの」の浸透・定着活動

大切にするものの心の理解を深めるために、日常の行動宣言やｅラーニングを実施し、定着活動に取り組んでいます。
また、国内外子会社においても同様に展開しております。

【Basic MAP：私たちの大切にするもの】

click
「私たちの大切にするもの」
(2010.12 月改訂発行)

お客様第一

モノづくりを通じてお客様に喜びと満足を感じていただける商品・サービスを提供するために、常にお客様を第一に考えて行動

業務のプロセス

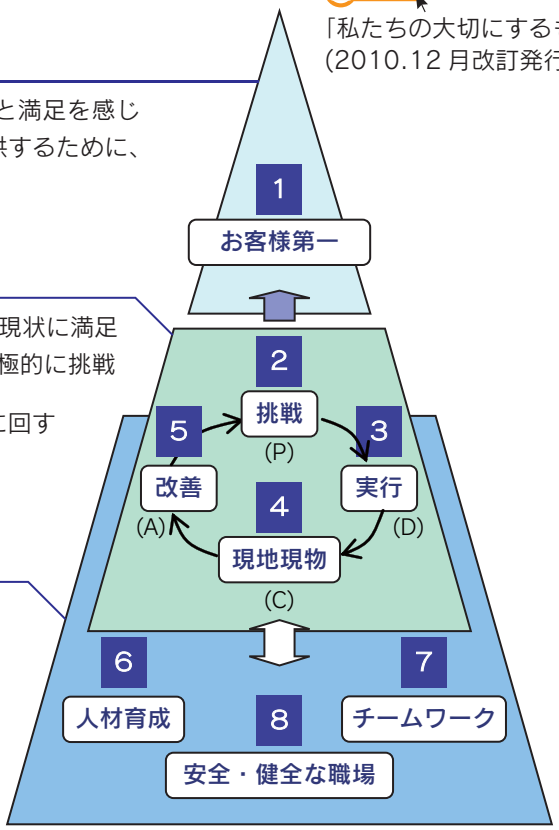
常に 1 ランク高い目標を設定し、現状に満足することなく、自ら新しい課題に積極的に挑戦

業務のプロセス（ＰＤＣＡ）を確実に回す

活力ある職場

従業員一人ひとりのしあわせと安全で健全な職場をつくる

人材育成・チームワークといった人と組織のベースとなる部分をしっかりさせる



1.お客様第一
■全てはお客様の満足のために
■自工程の役割を完結する

2.挑戦(P)
■ベンチマーク　■チャレンジ

3.実行(D)
■役割を自覚する
■スピーディーに最後までやり遂げる

4.現地現物(C)
■現地現物で観察する
■なぜなぜを繰り返す

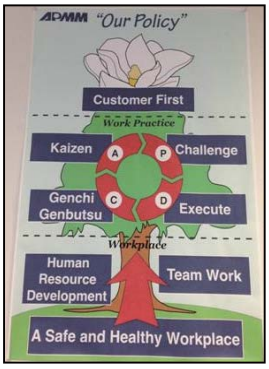
5.改善(A)
■絶え間ない改善
■失敗を糧とする

6.人材育成
■人を育てる　■自らを高める

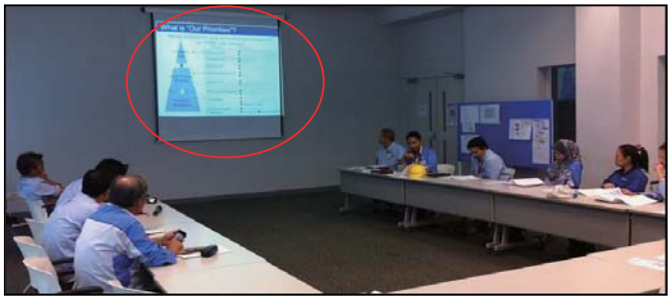
7.チームワーク
■役割を自覚し協力し合う
■正直・バッドニュースファースト
■聞く耳を持つ

8.安全・健全な職場
■安全意識　■ルール遵守
■倫理観

＜海外での展開活動＞



オートパーツマニュファクチャリングミシシッピ（株）ではオリジナルポスターを作成し展開（アメリカ）



トヨタオートボデーマレーシア（株）では英訳版を使った職制勉強会を開催（マレーシア）

世界に目を向けチャレンジ精神あふれる自律的な人材づくり

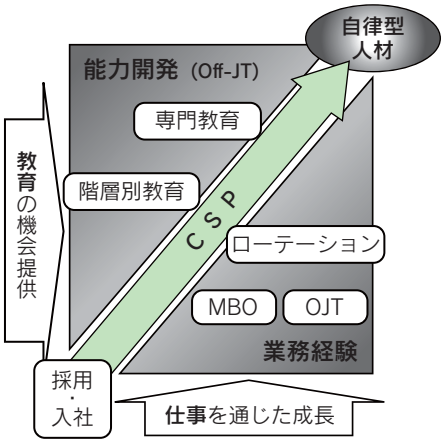
中長期的な視点から人材育成するしくみを構築し、自ら考え、自ら行動できる『自律型人材』の育成に取り組んでいます。また、グローバルに活躍できるプロ人材の育成も推進しています。

人材育成の基本的な考え方

当社は、社員一人ひとりが将来の目指す姿・目標を持ち、主体的にいきいきと働く「自律型人材」の育成に力を入れています。

個々人に目を向けて、育成を計画的にサポートすることを目的とした「キャリアサポートプログラム」を運用し、個々人の育成を促進しています。

個人の成長を促進・サポートする仕組み



〔キャリアサポートプログラム〕

会社・上司・本人が一体となり個人の育成をサポートする仕組み。
育成計画、育成基準、育成施策から構成され長期・中期・短期の視点から育成を図っている。

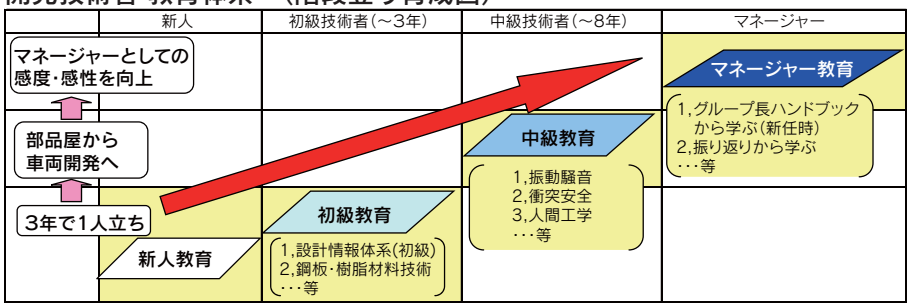
プロ人材の育成

技術開発のプロ人材

技術開発教育は、講義ルームと教育展示場、CAD教育場を使って、最新の実務に即した教育を現地・現物で、体感しながら実施しています。

1 年目の新人教育後、職場 OJT と 3 年目の初級教育、5 年目以降の中級教育、グループ長のマネージャー教育へと、ステップアップする教育により、更なる開発力強化を目指しています。

開発技術者 教育体系　（階段登り育成図）



現物を使った新人教育

新人 CAD * 教育

専門技術を学ぶ中級教育

新任グループ長研修

* CAD：Computer Aided Design

生産技術のプロ人材

世界トップレベルのミニバン・商用車・SUV 造りを目指し、2008 年より技術教育をスタート。

1 年目は車両分解教育など現地現物での基礎技術教育を行い、2 年目以降は先輩についての OJT、中堅社員にはエンジニア塾にてプロの生産技術の教育を実施しています。

また節目での教育、発表会などを実施し、日々、生産技術力の強化に取り組んでいます。

新入社員教育（車両分解）

入社 2 年目発表会

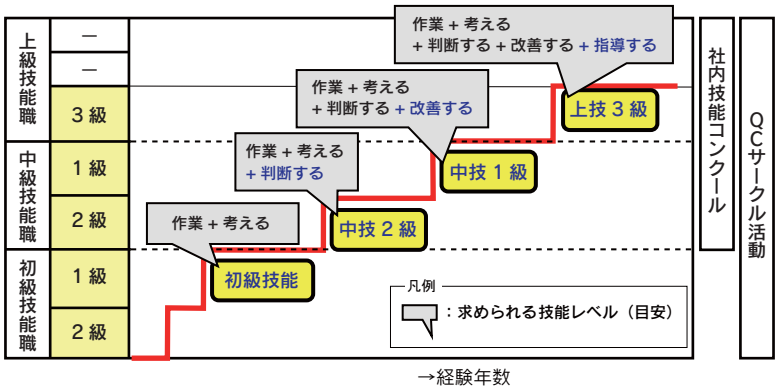
■人づくり、職場づくり

プロ人材の育成

生産のプロ人材

お客様の安心と信頼を得るため技能系社員の教育と訓練を実施しています。更なる技能向上を目指し、技能研鑽・技能伝承の取り組みも積極的に行っています。

生産技能者 教育体系　（階段登り育成図）



【新人教育】

職場配属前に専任トレーナーによる『基礎知識教育と基本技能訓練』を実施します。

また、将来、職場の核となる人材の早期育成を目指し『技能五輪』に挑戦しています。

【中堅社員教育】

プレス・ボデー・塗装・成形・組立・物流・保全の職種で資格に応じた『実践技能・知識教育』を実施しています。

【技能研鑽】

研鑽の大きな場となる『社内技能コンクール』で は国内・海外子会社も参加しトヨタ車体グループで競い合い、技能向上を目指し取り組んでいます。

＜新人 基本技能訓練＞

専任トレーナーによる指導

＜技能五輪＞

自動車板金職種敢闘賞　田中 仁

＜社内技能コンクール＞

ボデー職種

塗装職種

海外生産でのプロ人材育成

海外子会社の現地技能員の育成にも取り組んでいます。
日本人技能トレーナーの現地派遣や、現地ローカルトレーナーを日本で教育しています。

＜海外人材育成＞

日本で教育

現地に派遣して教育

現場力、チームワーク向上に向けて

問題を解決できる人づくり、チームワークの良い職場づくりを目指し、職場力の強化に取り組んでいます。

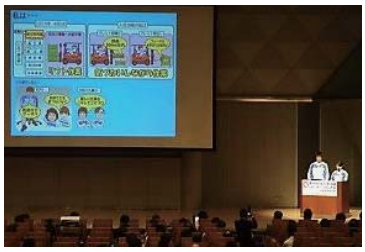
ＱＣサークル活動

国内・海外子会社を含む５２６サークルが参加し「共に学び共に成長」の場となっています。『トヨタ車体グループ QCサークル大会』では選抜されたサークルによる発表を行い活動の活性化に繋げています。

社外ＱＣサークル大会（全日本選抜大会）

国内最高峰の全日本選抜大会で『本部長賞金賞』を
いなべ工場が４年連続で受賞しました。(日本初)

＜全日本選抜ＱＣサークル大会＞



発表の様子（於 東京ビックサイト）

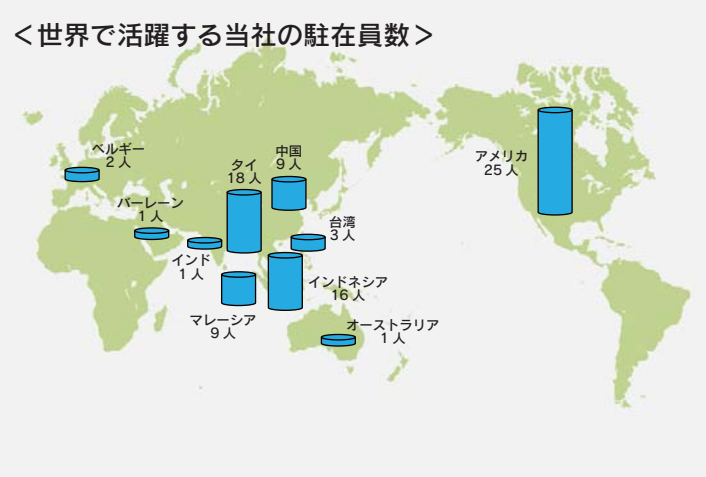
金賞受賞の賊・八人の侍サークル
（いなべ工場第１組立課）

■人づくり、職場づくり

プロ人材の育成

グローバル人材の育成

オールトヨタ車体グループ全体の海外事業拡大のため、
グローバル人材育成の充実に取り組んでいます。



【海外育成出向】

海外事業展開に対応出来る人材の早期育成策として若手社員を対象とした育成出向制度を 2011 年度より導入しました。これまでに 26 名の若手社員を派遣し、帰任後は育成出向の経験を活かし海外関連業務に従事し、活躍の場を広げています。

＜研修生の声＞

総務部法務・管財室　西岡　伸朗（タイ：TAW）

改正法への対応を検討する西岡さん
(右から3番目)

当初は自らの意思を上手く伝えられず苦労の連続でした。異なる文化から生ずる考え方の違いを日々実感しながら業務に従事しています。可能な限り多くを学び、吸収したいと思います。

車両生技部　若林　淳（北米：TEMA）

新工場の仕様について議論する
若林さん(右から2番目)

工場の新設という非常に貴重な経験を積ませていただいています。ここで培った経験、知識をしっかりと持ち帰り、今後の業務に役立てていきたいです。

【デザイン研修出向】

デザイン部ではトヨタ自動車の北米デザインスタジオ(CALTY) に研修生を派遣しています。

年々増加するグローバルプロジェクトに対応するため、グローバルで戦えるアイディア発想力、表現力、プレゼン能力を実践を通じて養成しています。

ローカルスタッフとデザインのアイデアを
検討する研修生（右端）

【ICT 制度】

当社では、海外事業体の自立化を推進するため
ICT（企業内転勤）制度を設けています。

いなべ工場ではタイ TAW の従業員 5 名を受け入れ、約半年間の研修を実施しました。
現地における次期プロジェクト生製準での自立化を目指して、実務経験を通じて日本のものづくりの知識・スキルを習得しました。

いなべ工場での研修成果を報告する
タイのICT研修生（右から2番目）

【海外コミュニケーション能力の向上】

当社では、海外で通訳なしで業務遂行できるレベルを目指し、海外支援者を対象に英語研修を実施しています。

ネイティブ講師による技術指導英語を中心とした事技コースと基本的な英会話や技能指導英語を学べる技能コースを実施しています。

ネイティブ講師と会話を通じて
英語力アップを図る（刈谷研修所）

技能員の英語研修の様子
（技能研修センター）

コンプライアンス・防災意識の高い「健全な職場づくり」を推進

全社員のコンプライアンス意識の向上を目指して

ＣＳＲ委員会の下部組織として「企業行動倫理委員会」を設置し、法令遵守のしくみ充実、健全な企業風土の構築に向けた活動について審議・方向付けを実施し、トヨタ車体グループのコンプライアンス意識の向上に取り組んでいます。また、社員へのコンプライアンス徹底のために、「私たちの約束すること（グループ行動指針）」を教育・研修などの場を通じて継続的な徹底を図っています。

click 「トヨタ車体グループ行動指針（2005.3 月発行）」

コンプライアンス徹底に向けた取組みの充実

ビジネスがグローバル化する中、トヨタ車体グループ全体で国内外のコンプライアンスの向上に取り組んでいます。

国内においては、主体的にコンプライアンス活動を推進できるツールを整備し、また、定期的なモニタリングを実施するなど、活動の維持・向上を図っています。

また、海外においては、国内の取り組みをベースに従業員の意識向上に向けた取り組みを実施しています。

海外従業員の意識向上取り組み例

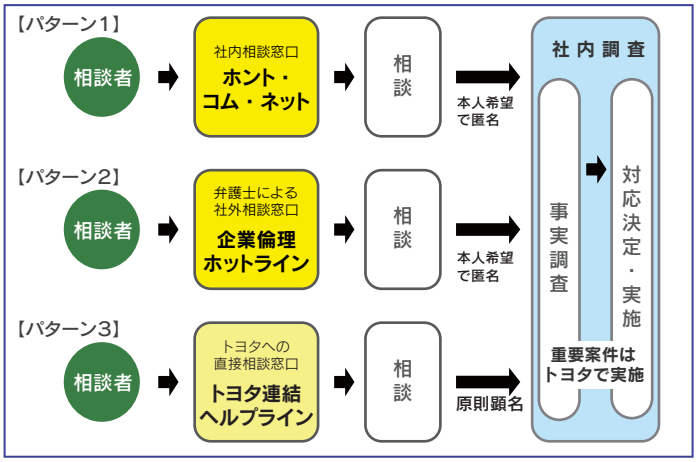
コンプライアンス活動に関するミーティング（海外）

ポスターによる贈収賄防止活動

企業倫理相談窓口の更なる充実

労働問題等、上司や同僚に相談しにくい案件について、Ｅメールなどで直接受け付ける相談窓口「ホント・コム・ネット」や、弁護士による社外相談窓口「企業倫理ホットライン」を設置し、適切な対応ができる体制を整えています。

また、2013 年 1 月より、社内窓口で相談しづらい場合は、トヨタ自動車に直接相談できる「トヨタ連結ヘルプライン」を設置し、更にきめ細かい対応を行っています。



企業倫理相談窓口の3つのパターン～社内調査まで

実践的な訓練を通じて防災意識の向上を目指して

多様化するリスクを最小化すべく、内部統制の一環としてリスク管理の充実強化にトヨタ車体グループとして取り組み、経営に影響があるリスクを評価・特定し、未然防止・初動対応の整備を進めています。初動対応である防災訓練においては年々より実践度を向上して取り組んでいます。

大震災で本当に使える総合防災訓練の実施

近年はより実践的な訓練にするため、「訓練時刻を知らせないこと」や「避難経路の一部が使用できないケースの想定」、「迅速に行動しやすい小グループ屋外避難」を織込み、「各職場で安否を集約し、全社災害対策本部へ連絡する訓練」を全事業所・全子会社で実施しました。
また、刈谷市との間では万一の場合に宿舎・飲食料を提供する防災協定も締結しています。

＜総合防災訓練（当社）＞

小グループ単位で全員が屋外避難場に移動

屋外避難（全体写真）

初期消火訓練（消火器、消火栓）

けが人の搬送

救助シューター設置訓練

安全第一を最優先に「安全な人と職場づくり」を推進

トップの安全第一の場づくりと社員一人ひとりの安全感性を高める活動の強化など
取引先様、海外子会社全てでゼロ災害を目指し活動を推進しています。

全社員の安全第一に向けて

トップの安全第一の場づくり

全社安全大会で「安全活動の基本を大切に」をスローガンに社内役員・部課長および関連子会社トップを含め全員で唱和し、災害ゼロの実現を誓い合いました。

また、安全月間など、職場が困っていることを社長自ら現場で確認し改善につなげる活動を率先し推進しています。

2014 年 7 月全社安全大会

社長による安全活動確認
（7 月安全月間）

安全感性を高める活動

交差点での指差呼称、階段昇降時の手摺り保持など誰が見ても判り易い５つの基本行動を決めて、一人ひとりが、安全を考える。守っていない人にその場で注意できる風土を醸成することを目指し、「ポ･ケ･手･な･し」活動に取り組んでいます。

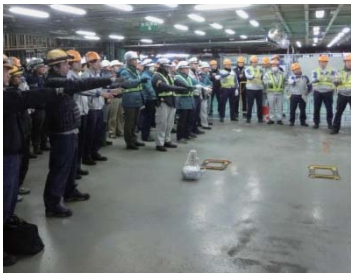
また、全社員の安全感性を高める活動として、道具を使わせ安全な手順を考えさせることや現場で異常を見つける訓練など個人別ＫＹ診断を行う階層別のＫＹ教育制度を立上げ、スキルアップに 取り組んでいます。

のぼりによる
周知・展開活動

実際に体感させ危険を
考えさせるKY教育
（バール取扱い、大物ワーク運搬の例）

取引先様の安全第一に向けて

当社敷地内、当社に関わる輸送における災害発生をゼロにしたいとの考えのもと、仕入先、外来工事業者や輸送業者と連携して取り組んでいます。特に災害の発生しやすい長期連休工事安全では、安全確認（決起集会）など安全管理のレベルアップ活動を推進しています。



冬季連休工事特別安全朝礼

全輸送業者への
フォークリフト安全ルール勉強会
（当社技能育成センター）

海外事業体の安全第一に向けて

海外でも社内活動を展開し、社長による安全点検、朝礼時での安全唱和、4S、「ポ･ケ･手･な･し」活動などトップ自らが率先し、全員参加型の注意し合える風土の醸成を目指しで取り組んでいます。

インドネシア（RPT）のトップによる安全点検

朝礼時の安全唱和

4S 活動

click 「安全体感道場（TABMEC）」

click 「安全衛生基本方針」

click 「労働災害発生状況」

社員の心身両面の健康をめざして

もっといい車づくりをしていくためには、社員が健康であることが重要であると考え、
健康企業の実現に向けて様々な施策を実行することで社員一人ひとり、および、
その家族を含めてが、健康でいられるように取り組んでいます。

社員と家族も含めた健康のために

従業員一人ひとりが自立的に健康保持増進のできる人づくりを目指して、メンタルヘルスの保持増進、生活習慣改善（メタボ予防）、禁煙活動を３本柱として様々な活動を推進しています。

また、製造業に多い腰痛対策の指導会や健康保険組合のウォーキングイベント、全社運動会とタイアップして家族も参加できる健康づくりイベントを開催しています。

健康運動指導士の腰痛予防指導会

親しみの持てる心の相談室を目指して

富士松・いなべ・吉原工場へメンタルヘルスの専門家である臨床心理士を配置し相談体制を整備しています。

また、従業員がメンタルケア相談に来てもらえるように、健康イベント、精神科医による基幹職への講演会、職場別教育などで臨床心理士自ら窓口を紹介し、相談しやすい雰囲気づくりを進めています。

ストレスチェックの様子
（唾液成分を測定しストレス判定）

基幹職向けメンタル講演会

家族参加型イベント、出前健康教室により健康意識を喚起

生活習慣を見直すきっかけを与えるため、家族も参加可能な形で全社運動会とタイアップして健康測定会を開催しています。

また、積極的に職場へ出向き AED 講習や禁煙・メタボ・歯の健康教室を開催するなど従業員の健康への意識醸成のために活動を推進しています。

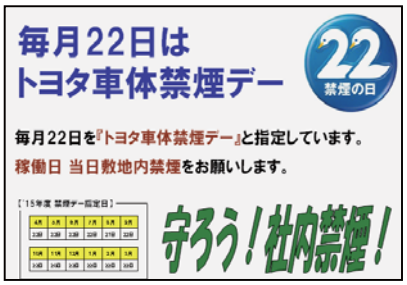
全社運動会での健康測定

職場での AED 講習

禁煙支援と分煙環境の整備

禁煙者の創出のために、毎月 22 日を社内禁煙デーに指定し禁煙のきっかけづくりを実施し、禁煙への支援策として社内診療所にて禁煙外来を実施しています。

また、非喫煙者の受動喫煙を防止するために社内の分煙化を推進しています。



社内禁煙デーのポスター
（２２⇒スワンスワン⇒吸わん吸わん）

禁煙外来 ～呼気 CO 濃度測定～
（測定により禁煙効果を確認）

「活力ある職場づくり」に向けたコミュニケーション活動

社員一人ひとりの幸せと会社の発展を支える活力ある職場風土をつくるため、さまざまな場づくりを行い、職場や職位の枠を超えたコミュニケーションの活性化、一体感の醸成を図っています。

何でも話せる職場をめざして

(フォーマル活動)

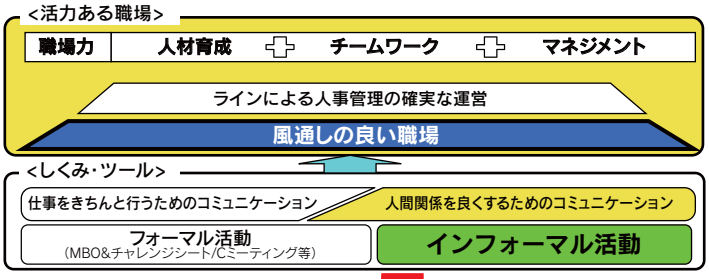
日常の職場ミーティング・上司との面談や小集団活動などを通じたコミュニケーションの充実を図っています。

明るく楽しく元気良い職場をめざして

(インフォーマル活動)

全社・事業所・部門毎に行なう仕事を離れたイベントを通じ、コミュニケーションの充実や一体感の醸成を図っています。

コミュニケーション活動を通じた活力ある職場づくり



【全社】

15 年ぶりに開催した全社運動会
「ふれ愛・運・動・会」

全社スポーツ大会
「トヨタ車体グループ フットサル大会」

スポーツクラブ応援

【オールトヨタ】

「オールトヨタビッグホリデイ」

【事業所別】

事業所の特色をいかしたイベントの開催

吉原工場
フェスティバル

富士松工場
三輪車レース

【部門別】

開発部門駅伝大会

トピックス

食堂での情報発信

全食堂で動画でのインフォーマル活動情報を発信し、コミュニケーションのきっかけづくりにつなげています。

「創立 70 周年感謝の年」取り組み開始 (2015 年)

生技部門節句かざり手作り活動

ルーツ（先人）への「感謝」、仲間への「感謝」、「感謝」の気持ちで未来へ夢をつなぐイベントを全社・全部門で展開しています。

click 「スポーツクラブ　ハンドボール」　click 「スポーツクラブ　バレーボール」

良き社会人であるための「意識づくりと働きやすい環境づくり」

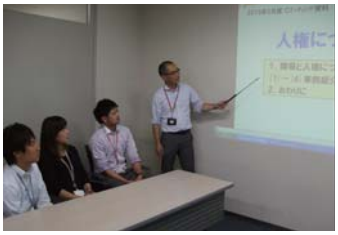
人権意識の深化や交通安全意識の徹底など、良き社会人であるための意識づくりに努めています。
また、社員の働きやすい環境をつくるための諸施策の充実に取り組んでいます。

良き社会人であるために

人権意識の深化

「個人の尊重」の意識向上をねらい、同和問題や女性・外国人の人権等、様々な人権課題についての社内教育を、全社員に対して行なっています。

人権教育（新任職制研修）



Cミーティングでの話し合い

交通安全意識の徹底

交通安全意識の向上をねらい、従来から行なっている立哨活動に加え、交通事故のご遺族による講演会を行い、生の声で残された家族の悲しみをお話いただき、交通事故撲滅に向けた啓発を行ないました。

従業員による交通安全立哨

ご遺族による講演会

多様な働き方を支える環境づくり

高齢者の働き方支援

（働きやすい工程づくり）
すべての人がいきいきと働き続けられることを目指し、やりにくい姿勢での作業改善など作業負荷の軽減に向け「らくらく工程づくり」を推進しています。

（体力低下防止に向けた意識改革の場づくり）
60歳以降も現状の業務を継続できるよう、40才・50才の方を対象に「意識づけセミナー」を開催し、「働き方」、「体力づくり」などを指導。
目標とするセカンドライフの実現に向けて、自助努力の必要性を学び、取組みを始めるきっかけの場を提供しています。

作業しやすい高さに上昇（タイヤ取付工程）

「らくらく工程づくり」
‥作業位置（高さ）に合せてボデーが上下し身体への負荷を軽減

意識づけセミナーでの体力づくり指導の様子

子育てサポートの充実

仕事と育児の両立を図るための支援策として、社内託児所「たっちっちハウス」の設置や、短時間勤務制度、育児休職制度など、法定を上回る制度により、従業員が働きやすい環境整備を進めています。

特に今年度は、「交替勤務に対応した利用時間の拡大」と、「祝日一時保育の開始」等、ニーズに合った保育環境を提供しています。

共同託児所「たっちっちハウス富士松」

click 「妊娠・出産から子育てにわたるサポート」

社会から必要とされる企業、人を目指して

社会から必要とされる企業であるためには、企業、人として社会的責任を果たし、地域のみなさんから信頼されることが大切であると考えます。
わたしたちは、社会貢献活動を通じて地域との共生を図るため、活動の活性化に向けた「人づくり」、「場づくり」、「しくみづくり」に取り組んでいます。

「人づくり」

活動参加をあと押しする講座の充実

ボランティア活動への参加を後押しする入門講座、専門分野のスキルアップ講座、リーダー養成講座など年間 60 の講座を開催しています。受講や体験活動を通して共感力を高め、社会で喜ばれる活動のできる人材の育成に努めています。

【森林整備講座】
社員の手による愛知企業の森整備活動を目指して、安全に間伐活動を進めるためのリーダーの養成と同時に、初めて参加する社員がリーダーの指導の下、間伐を体験できるしくみづくり（「知る」「実践」「継続」）を進めています。

【世代別入門講座】
新入社員には、研修の一環でボランティア活動体験プログラムを実施。NPO 支援や障がい者スポーツ競技会の運営等、全 28 のメニューの中から選択し自ら参加計画を立てて実施しました。

28 のメニューから選び参加計画を立案

＜知る＞
森林整備の必要性を学ぶ

＜実践＞
リーダーの指導により
森の健康状態を知る

新入社員ボランティア活動体験 参加者の声

生産管理部　大村 真一

大学祭で NPO 法人の活動 PR 支援

今回の参加で、ボランティアや休日の過ごし方に対する意識が変わりました。これからも好きなことを活かして積極的に参加しようと思います。

「活動の場づくり」

トヨタ車体グループの取り組み

国内、海外において、森林整備、環境保全活動やグループ一斉ボランティアの日『ふれあいデー』を実施。
従業員、家族、地域のみなさんとともに活動しています。

トヨタ車体研究所
錦江湾クリーン活動

海外子会社 3 社と実施した
インドネシア マングローブ植樹

■社会貢献

「活動の場づくり」

職場（ブロック）を中心とした取り組み

事業所や職場を中心に、近隣地域のみなさんとともに活動しています。

【環境美化】

工場周辺の清掃活動や緑化活動に、従業員と家族、地域の方々と一緒に取り組んでいます。

いなべ「北勢線沿線クリーン活動」は、地域・行政との連携・協働性の観点から評価され第 5 回 Make a CHANGE Day 優秀賞を受賞しました。

＜いなべ＞
北勢線沿線クリーン活動

＜吉原＞
逢妻男川緑の回廊づくり

【次世代育成・福祉活動】

地域の青少年とのふれあいを大切にした活動として、少年サッカー大会の支援ならびにハンドボール・バレーボール部員によるスポーツ教室などを行っています。

また、トヨタグループ、名フィルと共催で、障がいのある方々を招待し、「福祉コンサート」を開催しています。

刈谷市 トヨタ車体カップ
少年サッカー大会 優勝チーム

福祉コンサート

活性化・継続のための「しくみづくり」

施設を活用した地域連携の推進と環境意識向上施策の取り組み

「刈谷ふれ愛パーク」では、従業員と家族、地域の方、近隣小中学校を対象に、年間を通して農業体験、環境学習を実施しています。
地元の農業指導者から、自然の恵み・米作りを学んでいます。

また、いなべ工場敷地内には、「森の学習室」を完成させ、環境学習会、木工細工教室を開催しています。

完成した「森の学習室」をつかっての、木工細工教室（いなべ工場）

地域と共生、自然と調和する工場づくりの推進

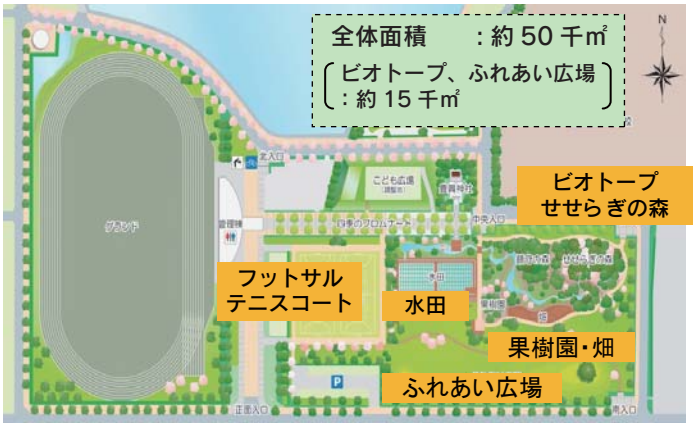
私たちは、自然や多くの生きものと関わりながら生活しています。人と自然が共生、地域の環境を維持するため地域の皆さんと連携し、自然と調和する工場づくりに取り組んでいます。

刈谷 学びと憩いの『刈谷ふれ愛パーク』の運用

2014年5月にオープンした『刈谷ふれ愛パーク』。

「人と自然との調和」をコンセプトに、農業体験や環境学習、地域交流イベントの場として活用しています。

また、ビオトープ(生物生息空間)は、愛知県の生物多様性戦略の一つである工場の緑地や周辺緑地などとのネットワークづくりにも貢献できるように整備を進めています。



施設を活用した、地域貢献・地域連携

小学生の社会科授業として年間を通して田植え、稲刈り、脱穀、籾摺り、の稲作学習と、餅つき、しめ飾りづくりと言った日本の正月行事を学ぶ場を提供しその文化を学んでいます。

また、地域の方、近隣の小学校、幼稚園、社員を対象に、パーク内にあるビオトープ等を活用した環境学習会を開催しています。

また、愛知教育大学と連携し、環境保全技術の指導や研究発表の場として活用されています。年度末には、卒業生の論文発表会を開催、生物多様性について理解を深めることができました。

ふれ愛パーク利用者の声

刈谷市立 富士松東小学校
野村　校長先生

子供達にとって自然に触れ、農業に触れ、また屋外授業の場として教室では学べない貴重な体験をさせていただいています。

年間を通じた農業体験<6月> 田植えと　<9月>の稲刈

自分達で植えたお米で餅つき体験

水田でできた稲わらで、しめ縄づくり

愛教大の学生を講師に迎えての自然観察会

ビオトープテーマの卒論研究発表

■地球環境にやさしく

生産技術本部・生産本部 統括
取締役副社長　石黒　明二

将来にわたり、豊かで住みやすい社会であり続けるために

当社は基本理念に“環境との調和”を掲げ、先人達の想いを繋ぎ 2011 年度から『第５次トヨタ車体環境取り組みプラン』を推進しております。
社会・地球の持続的な発展を目指し、新製品・設備切替に合わせた新技術の導入、全員活動による環境保全に取り組んでいます。
これからも地域の方々と連携し、豊かな社会づくりに引き続き取り組んでいきます。

トヨタ車体環境基本方針　（1993 年制定　2004 年改訂）

①豊かな 21 世紀社会への貢献
環境との調和ある成長を目指し、ゼロエミッションに挑戦します

②環境技術の追求
環境と経済を両立を実現する新技術の開発と定着に取り組みます

③自主的な取り組み
未然防止の徹底と法基準の遵守に努めるのはもとより、自主的な改善計画を策定、継続的な取り組みを推進します

④社会との連携・協力
関係会社・政府・自治体を始め、環境保全に係わる社会との連携・協力を構築していきます

「トヨタ車体環境取り組みプラン」

環境にやさしいモノづくりを通じて「社会、地球の持続的な発展」の実現を目指し、開発、生産・物流、調達の各分野で取り組み項目を策定し、総合的な環境マネジメントを継続的に推進しています。

1993　1995　2000　2005　2010　2015　2020

第１次	第2次	第3次	第4次	第5次	第6次
◇環境取り組み体制の整備	◇ISO14001 の導入による取り組みレベルの向上	◇埋立廃棄物ゼロエミッションと活動領域の拡大	◇グローバルでの CO_2 削減への対応と製品の環境配慮設計	◇小型 EV の開発推進 ◇地域と一体となった活動を通じた社会づくり	（策定中）

	低炭素 社会の構築	循環型 社会の構築	自然共生 社会の構築
製品環境（開発設計）	・車両軽量化による燃費向上 ・超小型モビリティ導入促進事業等への参画	・車両の解体性向上 ・リサイクル材の使用拡大 ・植物を利用した材料開発	・製品含有化学物質の管理充実 ・環境負荷の少ない製品への代替え推進
生産環境（生産・物流）	・低CO_2生産技術開発・導入 生産性向上、省エネ改善活動 ・物流における輸送効率向上と構内部物流の電動化	・排出物の低減と歩留り向上活動 ・梱包資材使用量の低減	・塗装における環境負荷物質(VOC)の低減
環境マネジメント（環境経営）	・連結環境マネジメントの強化、推進 ・環境啓発、教育の充実と推進	・地域と共生、自然と調和する工場づくりの推進 ・仕入先と連携した環境活動の一層の推進	

click 「環境取り組みプラン」経緯
click 第５次「トヨタ車体環境取り組みプラン」
click 製品・生産環境取り組み体制と実施事項
click 2014 年度取り組み結果

製品環境

3 大重点テーマ：低炭素　循環型　自然共生

トップクラスの燃費性能に寄与する軽量化技術の開発

エネルギー・温暖化問題は人類や生態系への影響が懸念される重要な環境問題と考え、
関係部署と連携し環境にやさしいクルマづくりを設計段階から取り組み技術開発を進めていきます。

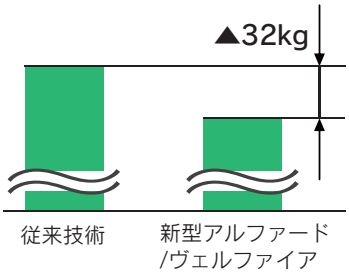
車両部品の軽量化技術の開発

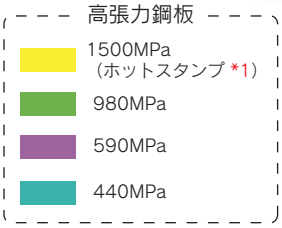
燃費向上には、パワートレインの改良とともに、車両の軽量化も欠かせません。
そのため、車両部品の軽量化は当社の基幹技術であると考え、全社で連携しながら積極的に取り組んでいます。

開発・生産技術部門の役員を交え、新型アルファード / ヴェルファイアの軽量化について討議

新型アルファード /ヴェルファイア
ボデー・内張り部品の軽量化に向けた主な取組み

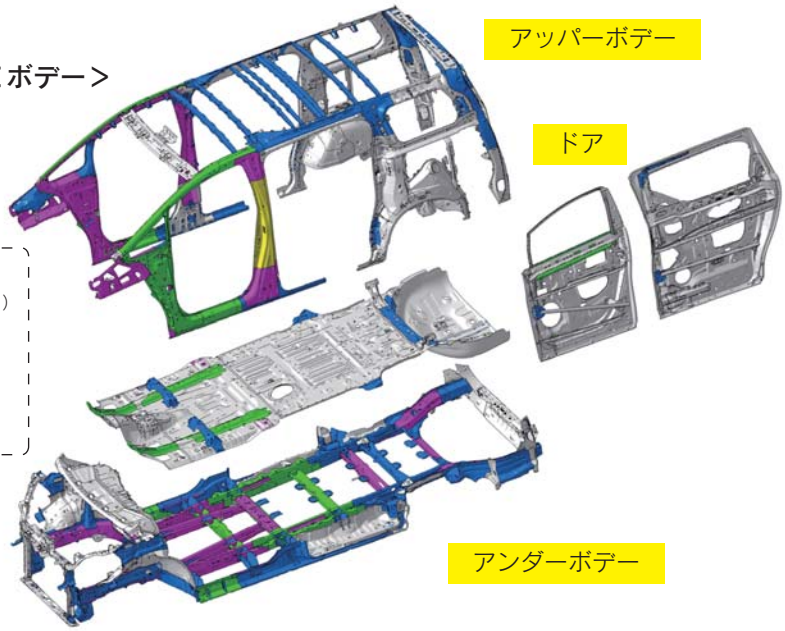
アンダーボデー重量のうち、約 62% に高張力鋼板を採用し、内張り部品の構成工夫や薄肉化により▲32kg の軽量化を実現しました。
高張力鋼板の採用により、効率的に剛性を高め、衝突安全性能を確保しつつ軽量化と高強度なボデーを両立しています。





*1．ホットスタンプ：鋼板を高温加熱し軟質化させた状態でプレス加工を行い、部品を加工する方法で、加工と同時に金型との接触による冷却により焼入れ強化を行う。

＜ボデー＞

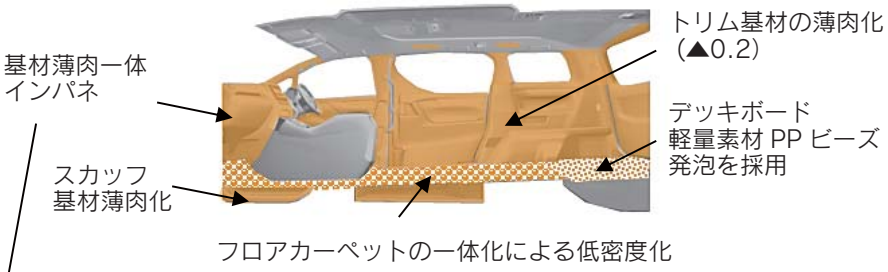


衝突安全性能評価 担当者の声

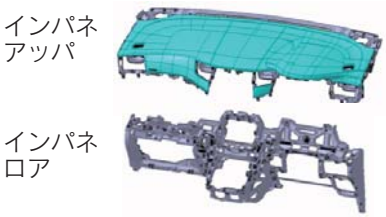
ボデー設計部
村上　睦

開発初期より関係部署と連携し、高張力鋼板の使用・部品の最適配置により軽量化を実現しました。

＜内張り＞



旧型：アッパ／ロア 分割構造　　新型：アッパ／ロア 一体成形



単体での強度アップにより薄肉化し、約 3kg の軽量化を実現

製品環境　　3 大重点テーマ：低炭素　循環型　自然共生

資源の有効利用に配慮したリサイクル設計の一層の推進

あらゆる資源は有限であるという認識のもと、3R(Reduce, Reuse, Recycle) を柱にして、
解体性向上、リサイクル材の使用拡大、植物材料の開発・設計に取り組んでいきます。

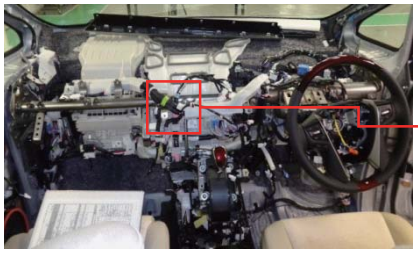
車両解体性向上に向けた取り組み推進

市場で広く行われる様になった重機での自動車解体に合わせ、トヨタ自動車の協力のもと、
解体しやすい車両構造の開発に取り組んでいます。

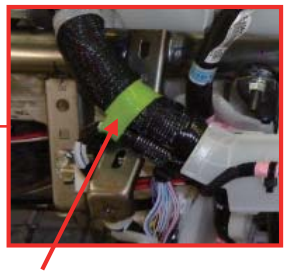
click 重機での自動車解体「動画」

重機でのワイヤーハーネス解体性向上

新型アルファード / ヴェルファイアの廃車車両から効率的にワイヤーハーネスを
取り外せる基点となる位置に緑テープを設定し、解体性向上を図りました。



インストルメントパネルワイヤーハーネス

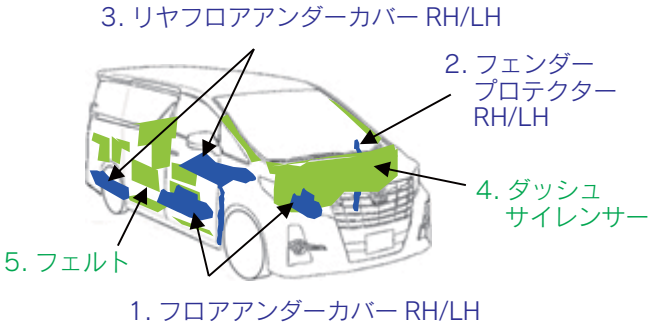


取り外しやすい基点となるワイヤーハーネスの位置に緑テープを設定

リサイクル材の使用拡大に向けた取り組み

市場で廃棄される樹脂やフェルトのリサイクル材の使用拡大

新型アルファード /ヴェルファイアではポリプロピレンのリサイクル材や再生フェルトを使用し、リサイクル性の向上を図りました。



1 ～ 3 部品：ポリプロレン（バンパー、他のリサイクル材）
4,　5 部品：再生フェルト

植物材料を利用した材料開発

スギ間伐材の利用

スギ間伐材を強化繊維として利用し、ポリプロピレンと組み合わせた難燃性射出材料「TABWD」*1 を開発しました。新型アルファードならびにヴェルファイアのハイブリッド車向けのワイヤーハーネスプロテクターとして採用され、資源の有効活用を図っています。

スギ微細繊維　　TABWD　　ワイヤーハーネスプロテクター
（黒い部分が開発材使用部位）

*1.TABWD：Toyota Auto Body WooD plastic

TABWD 開発　担当者の声

新規事業開発部
西村　拓也

今後もスギ間伐材を用いた射出材料の使用製品の拡大を目指し、間伐材の有効利用につながる新しい使い方を提案してまいります。

■地球環境にやさしく

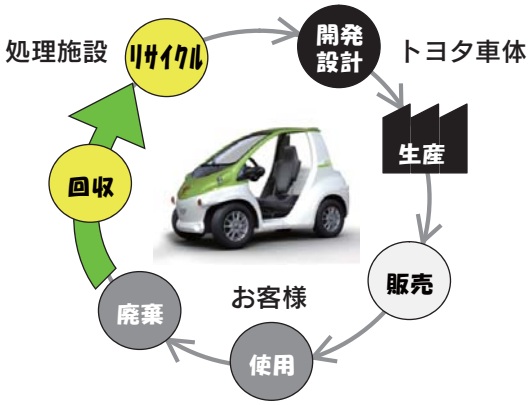
製品環境

3 大重点テーマ：低炭素　**循環型**　自然共生

超小型電気自動車　「コムス」のリサイクル事業スタート

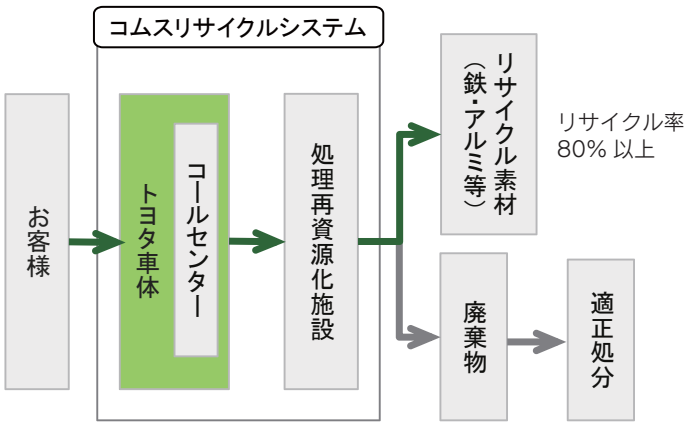
2015 年 4 月からスタートした「コムスリサイクルシステム」は、自動車リサイクル法適用外のコムスに対し、当社が独自に構築したリサイクルのしくみであり、今後も資源循環型社会の実現に向けて取り組んでまいります。

コムスがめざすライフサイクル



click コムスリサイクルシステムのホームページ

コムスリサイクルの流れ



環境省の広域認定を取得し、全国のお客様が利用できるシステムを構築しました。

3 大重点テーマ：低炭素　循環型　**自然共生**

製品に含有する化学物質管理の推進

原材料・部品などの取引先様と連携し、製品に含有する化学物質の使用把握とリスクを評価し、化学物質管理や環境負荷の少ない物質への転換など環境保全に努めていきます。

REACH 規則など、世界の化学物質規制への確実な対応

化学物質規制は日本の化審法 *1、欧州の ELV 指令 *2、REACH 規則 *3 などがあるほか、北米・アジアでも独自の規制を設けています。

こうした国際的な化学物質規制を受け、当社ではトヨタおよび取引先様と協力して化学物質管理の仕組みを構築し、運営しています。

2014 年度には、化学物質管理規制への対応を標準化するとともに、取引先様による IMDS*4 登録を定着化し、車両部品に含有する化学物質情報の収集を推進しています。

環境保全であるグリーン調達ガイドラインに基づき、子会社への化学物質管理のシステム導入を支援しています。

*1. 化審法：化学物質の審査および製造の規制に関する法律
*2.ELV 指令：End of Life Vehicles　使用済み自動車に関する指令
*3.REACH 規則：Registration,Evaluation,Authorization and Restriction of Chemicals
化学物質の登録, 評価, 認可及び制限に関する規則
*4.IMDS：International Material Data System　自動車業界向けの材料情報システム

click グリーン調達ガイドライン

生産環境

3 大重点テーマ：低炭素　循環型　自然共生

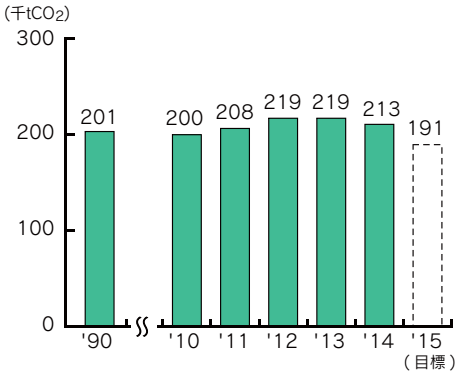
生産活動における省エネ活動の徹底と CO_2 排出量削減

低 CO_2 生産技術開発・導入、生産ラインでの生産性向上の追求、日常の徹底したムダ排除、設備の適正運転を推進しています。

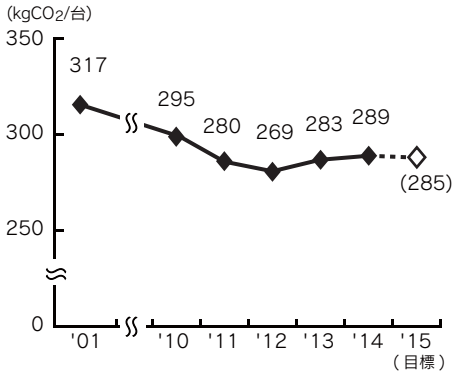
新型アルファード・ヴェルファイア立上がりに合わせた CO_2 低減活動

・新車立ち上げに合わせた新加工法導入（事例①②）
・いなべ工場　コージェネレーションシステム更新による CO_2 低減と自家発電比率 UP（事例③）
・直間・休日電力及びエアー漏れロスの徹底削減（事例④）

CO_2排出量(当社)

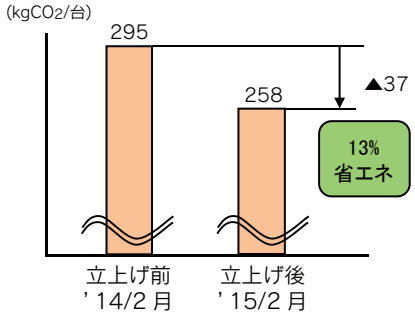


台当りCO2排出量(当社)



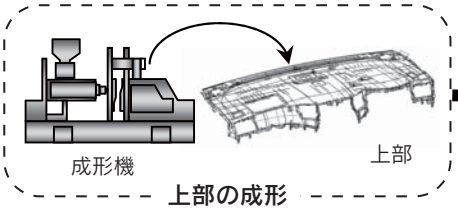
台当りCO2排出量(いなべ工場)

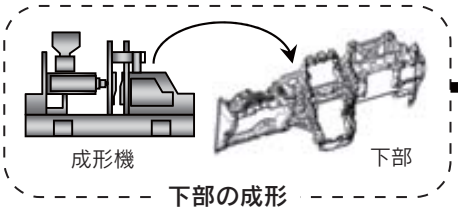
（新型アルファード・ヴェルファイア立上げ前後での比較）



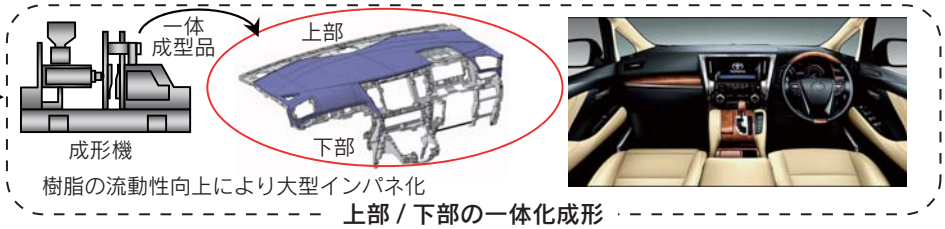
＜事例①　インパネ上部 / 下部の一体化成形による省エネ＞

＜従来＞

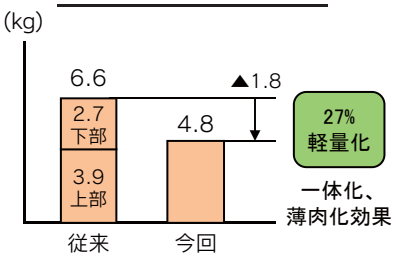




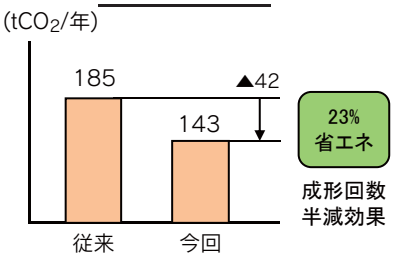
＜今回＞



インパネの軽量化効果

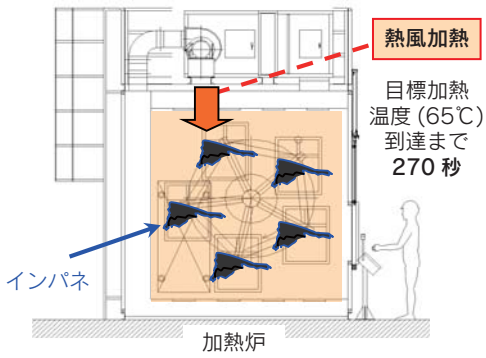


CO_2削減効果

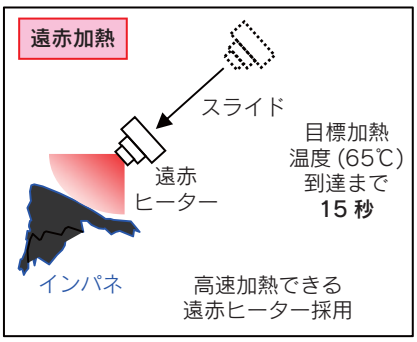


＜事例②　真空成形基材加熱方式改善による省エネ＞

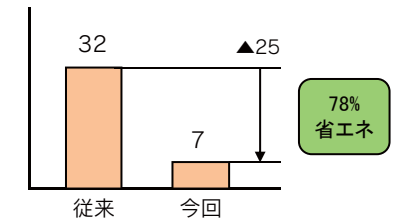
従来（全体加熱）



今回（局部加熱）



CO_2削減効果



■地球環境にやさしく

生産環境

3 大重点テーマ：低炭素　循環型　自然共生

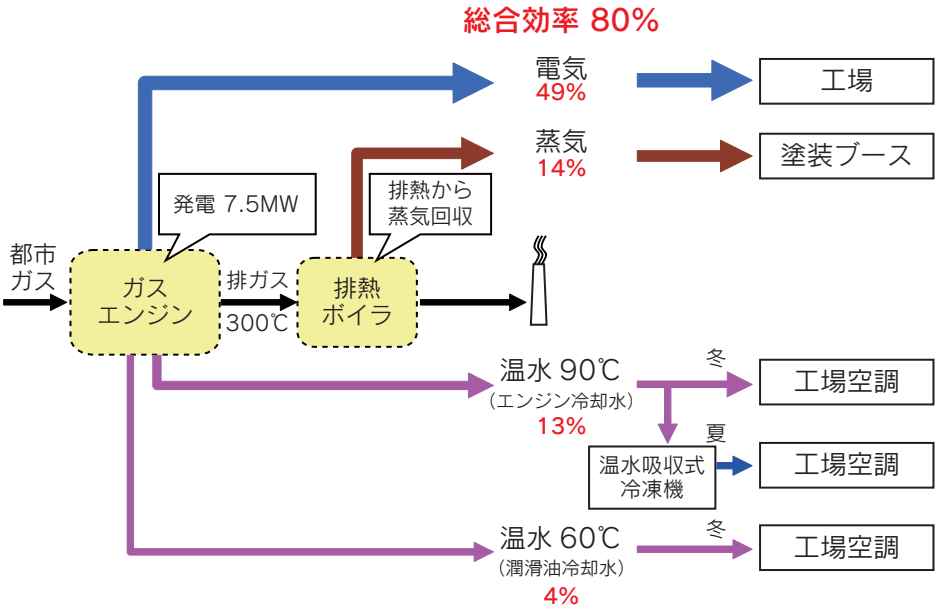
新型アルファード・ヴェルファイア立上がりに合わせた CO_2 低減活動

＜事例③　いなべ工場　コージェネレーションシステム更新による CO_2 低減と自家発電比率 UP＞

いなべ工場でガスエンジンコージェネレーションシステムの運用を開始しました。（2015 年 1 月より）
今後も更なる CO_2 削減に貢献していきます。

＜システムの特徴＞
・総合効率はガスエンジンとしてクラス最大の 80%、CO_2 削減効果は年間▲11 千 tCO_2 の見込み
・発電出力の大きい機種を採用し、自家発電比率を 32% まで向上
・大震災等の停電時において電力供給できるシステムを採用

発電効率 49% を実現した
最新のガスエンジンシステム



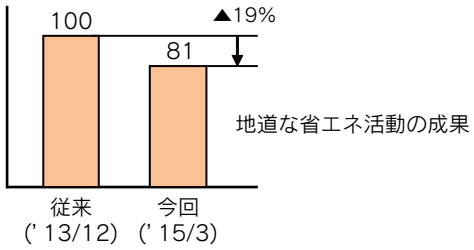
＜事例④　直間・休日電力及びエアー漏れロスの徹底削減＞

2014 年度は、各ショップ毎に富士松、いなべ、吉原工場間のベンチマーク 目標を設定し、
下記取り組みにて、500tCO_2/ 年削減しました。

・自主点検による早期エアー漏れ修理
・毎週、毎月の実績データの提供による活動成果の見える化
・省エネ活動の意識づけと動機づけのために、各工場で役員による
　省エネ現地現物点検

役員による省エネ現地現物点検
（2015 年 3 月）

（例）いなべ　プレス、ボデー工程時間当たりエア漏れ量（指数）



環境マネジメント

連結環境マネジメントの強化

社内、国内・海外子会社、取引先と連携したマネジメント体制を整備し、①環境取り組みの活性化を狙い、啓発活動を推進、②環境リスクの未然防止活動等を積極的に展開しています。

表彰制度の導入による活性化

社内 ▶ 国内子会社 ▶ 海外子会社

2014 年度から環境保全の取り組みに貢献した職場を表彰する制度を立ち上げ、活動の活性化を図りました。

非稼動時のエネルギーロスを大きく低減した職場（吉原組立部といなべプレスショップ）が表彰されました。

表彰式（2015 年 2 月）

表彰職場の活動：エアー漏れ点検（吉原工場組立部　2014 年 9 月）

環境啓発活動

社内 ▶ 国内子会社 ▶ 海外子会社

環境月間に合わせ様々な啓発活動に取り組んでいます。
2014 年度は「地球温暖化の現状と今後」をテーマに講演会を開催、温暖化の事実を理解し、省エネの必要性を再認識する良い機会になりました。

WWF ジャパン　小西様による講演会（2014 年 8 月）

薬品、生産汚水等の流出未然防止活動

社内 ▶ 国内子会社 ▶ 海外子会社

生産工程や薬品置き場等での流出防止を狙い、日常管理に 加え、万が一でも社内に留める手順を決めて、迅速に行動 する緊急訓練を計画的に実施しております。2014 年度は 海外子会社にも展開しています。

流出を想定した拡散防止の訓練
刈谷工場（2014 年 8 月）　TAW（2014 年 10 月）

国内・海外子会社を含めたマネジメント強化

社内 ▶ 国内子会社 ▶ 海外子会社

生産拠点において ISO14001 認証の取得を推進しています。
2014 年度は新たに海外子会社 3 社での取得が進み、全拠点で取得完了いたしました。

国内・海外連結会社と定期的な連絡会、現地監査を通じて取り組み内容を確認し、環境対策事例などの共有、環境 教育を実施しています。

APMM で ISO14001 認証取得（2015 年 2 月）

現地監査　T-TEC（2014 年 9 月）

その他の環境関連データ

click「事業活動における資源投入量と排出量」
click「環境情報の積極的開示」
click「環境会計」

みなさまからお寄せいただいたご意見をトヨタ車体のこれからのＣＳＲ活動やレポートの改善に生かすために、アンケートに是非ご協力ください。

お寄せいただいたご意見・ご感想は、上記の目的のためにのみ使用させていただきます。
（個人情報の取り扱いについては弊社「 プライバシーポリシー 」に基づき、適性に管理します。）

アンケートはこちらからご回答いただけます。 click

発行

本社	トヨタ車体株式会社 〒448-8666　愛知県刈谷市一里山町金山100番地　TEL.0566-36-2121
お問い合わせ	経営企画部 TEL.0566-36-7510　FAX.0566-36-9113
発行	2015年6月（次回発行2016年6月予定）

click http://www.toyota-body.co.jp/